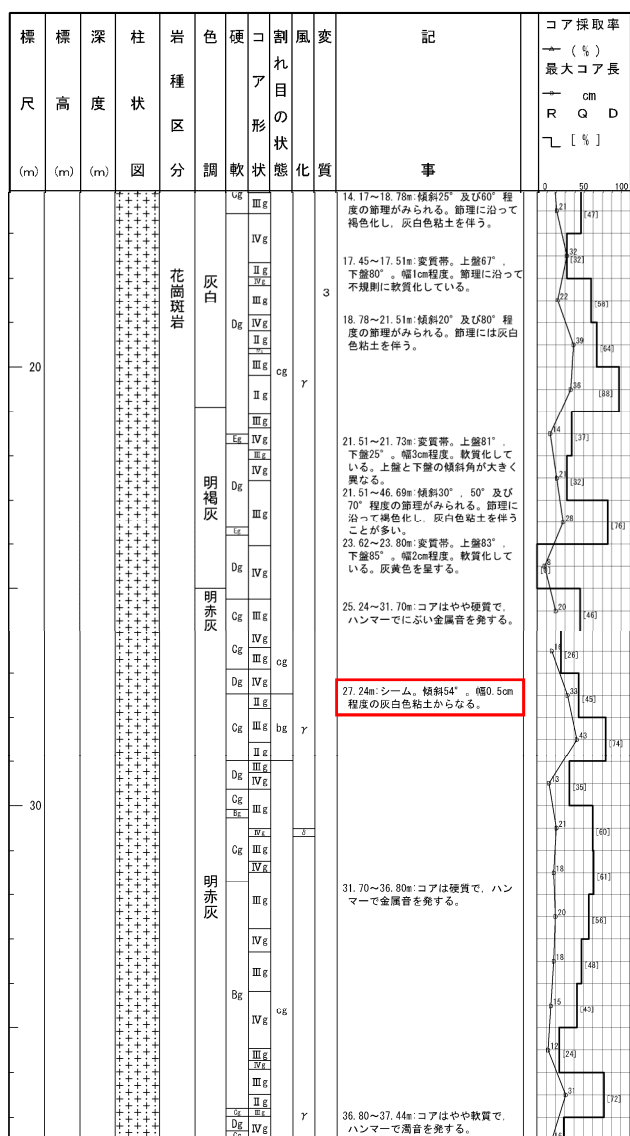


柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-1孔 深度27.24m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

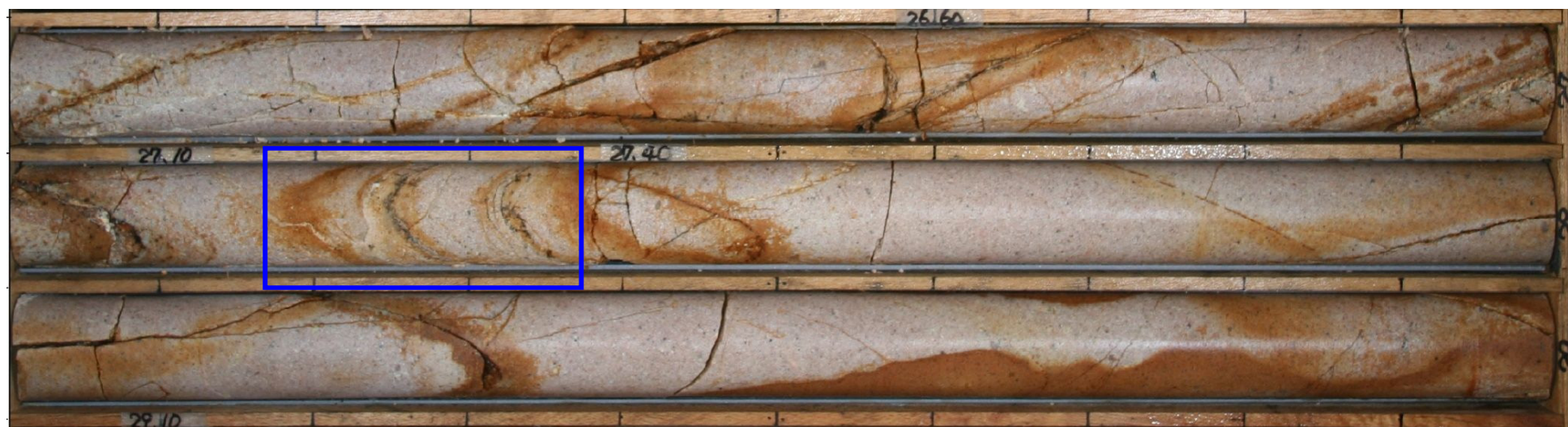
| 記事 |
|--|
| 14. 17~18. 78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 17. 45~17. 51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。 18. 78~21. 51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 21. 51~21. 73m ・変質している。 ・軟質化する。 21. 51~46. 69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。 |
| ●23. 62~24. 62m (D-19破碎帯) ・破碎部である。 ・明褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は25°である。 25. 24~31. 70m ・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。 27. 24m ・幅0. 5cmの灰白色粘土からなる。 31. 70~36. 80m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。 |
| 36. 80~37. 44m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。 |

審査資料

(平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 14. 17~18. 78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 17. 45~17. 51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。 18. 78~21. 51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 21. 51~21. 73m ・変質している。 ・軟質化する。 21. 51~46. 69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。 |
| ●23. 62~24. 62m (D-19破碎帯) ・破碎部である。 ・明褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は25°である。 25. 24~31. 70m ・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。 27. 24m ・幅0. 5cmの灰白色粘土からなる。 31. 70~36. 80m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。 |
| 36. 80~37. 44m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--------------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 27.24m:シーム。傾斜54°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。 | 27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。 | 27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。 |



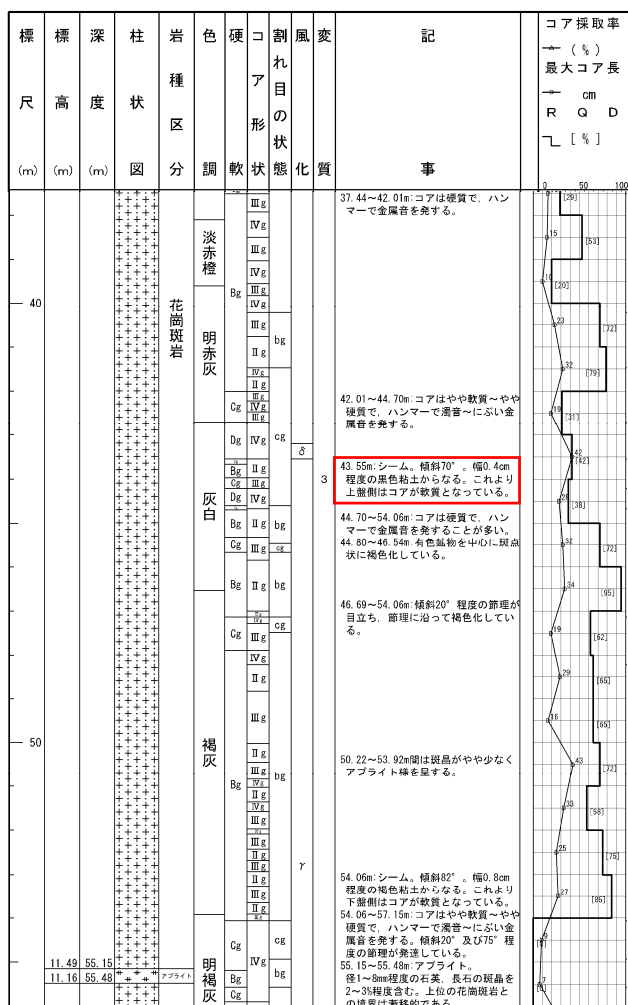
凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-1孔 深度43.55m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

| 記事 |
|---|
| 37.44~42.01m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。 |
| 42.01~44.70m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 |
| 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 |
| 44.70~54.06m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 |
| 44.80~46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 |
| 46.69~54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。 |
| 50.22~53.92m ・斑晶がやや少なく、アブライト様を呈する。 |
| 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 |
| 54.06~57.15m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 |
| 55.15~55.48m ・アブライトである。 |

審査資料

(平成30年11月30日)

| 記事 |
|---|
| 37.44~42.01m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。 |
| 42.01~44.70m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 |
| 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 |
| 44.70~54.06m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 |
| 44.80~46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 |
| 46.69~54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。 |
| 50.22~53.92m ・斑晶がやや少なく、アブライト様を呈する。 |
| 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 |
| 54.06~57.15m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 |
| 55.15~55.48m ・アブライトである。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|--|--|
| 43.55m:シーム。傾斜70°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質となっている。 | 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 | 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。 |

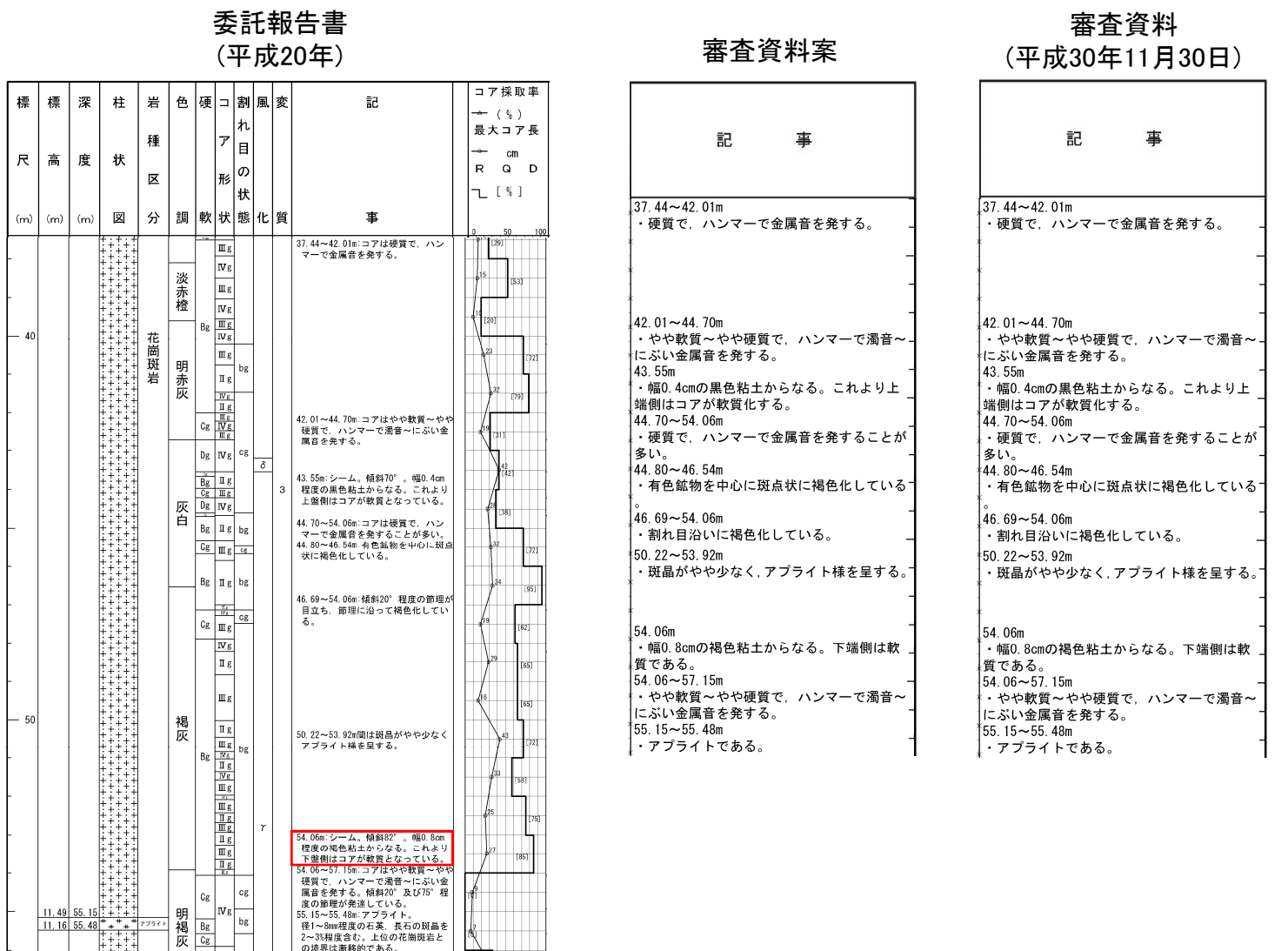


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-1孔 深度54.06m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 54.06m: シーム。傾斜82°。幅0.8cm程度の褐色粘土からなる。これより下盤側はコアが軟質となっている。 | 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 | 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。 |

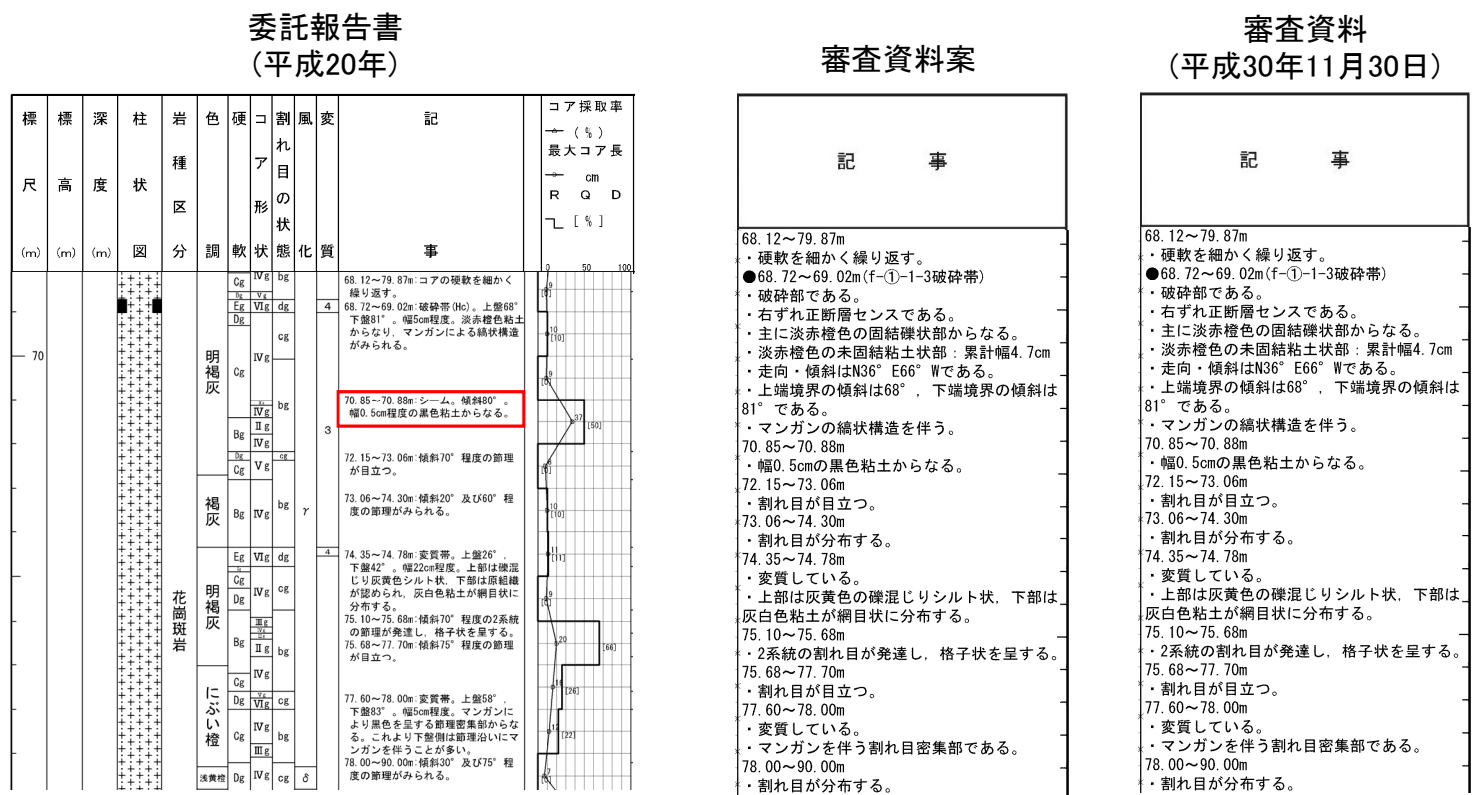


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-1孔 深度70.85~70.88m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 70.85~70.88m:シーム。傾斜80°。幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。 | 70.85~70.88m ・幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。 | 70.85~70.88m ・幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。 |

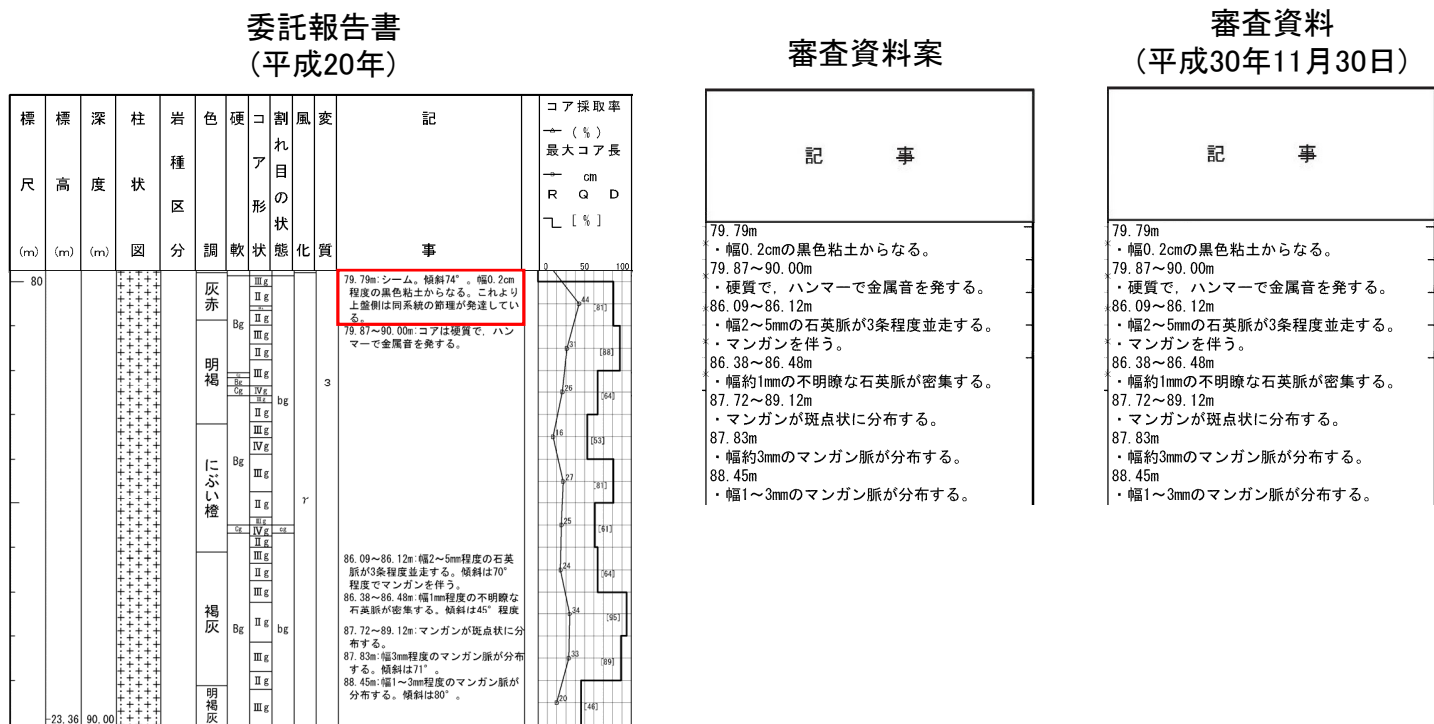


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-1孔 深度79.79m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-----------------------------|-----------------------------|
| 79.79m:シーム。傾斜74°。幅0.2cm程度の黒色粘土からなる。これより上盤側は同系統の節理が発達している。 | 79.79m ・幅0.2cmの黒色粘土からなる。 | 79.79m ・幅0.2cmの黒色粘土からなる。 |

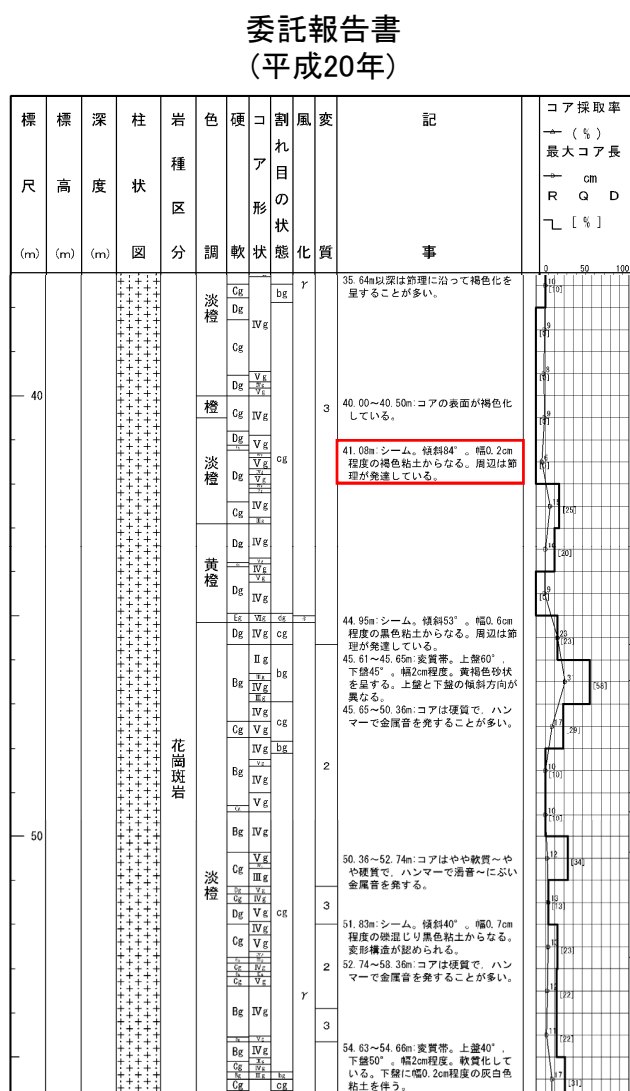


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-2孔 深度41.08m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



| 審査資料案 | |
|--------------|---------------------------------|
| 記事 | |
| 35.64m以深 | ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 |
| 40.00~40.50m | ・コアの表面が褐色化している。 |
| 41.08m | ・幅0.2cmの褐色粘土である。 |
| 44.95m | ・幅0.6cmの黒色粘土である。 |
| 45.61~45.65m | ・変質している。 |
| 45.65~50.36m | ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 |
| 50.36~52.74m | ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 |
| 51.83m | ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 |
| 52.74~58.36m | ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 |
| 54.63~54.66m | ・変質している。 |
| | ・軟質化している。 |
| | ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。 |

| 審査資料 (平成30年11月30日) | |
|--------------------|---------------------------------|
| 記事 | |
| 35.64m以深 | ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 |
| 40.00~40.50m | ・コアの表面が褐色化している。 |
| 41.08m | ・幅0.2cmの褐色粘土である。 |
| 44.95m | ・幅0.6cmの黒色粘土である。 |
| 45.61~45.65m | ・変質している。 |
| 45.65~50.36m | ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 |
| 50.36~52.74m | ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 |
| 51.83m | ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 |
| 52.74~58.36m | ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 |
| 54.63~54.66m | ・変質している。 |
| | ・軟質化している。 |
| | ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|----------------------------|----------------------------|
| 41.08mシーム。傾斜84°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 | 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 |



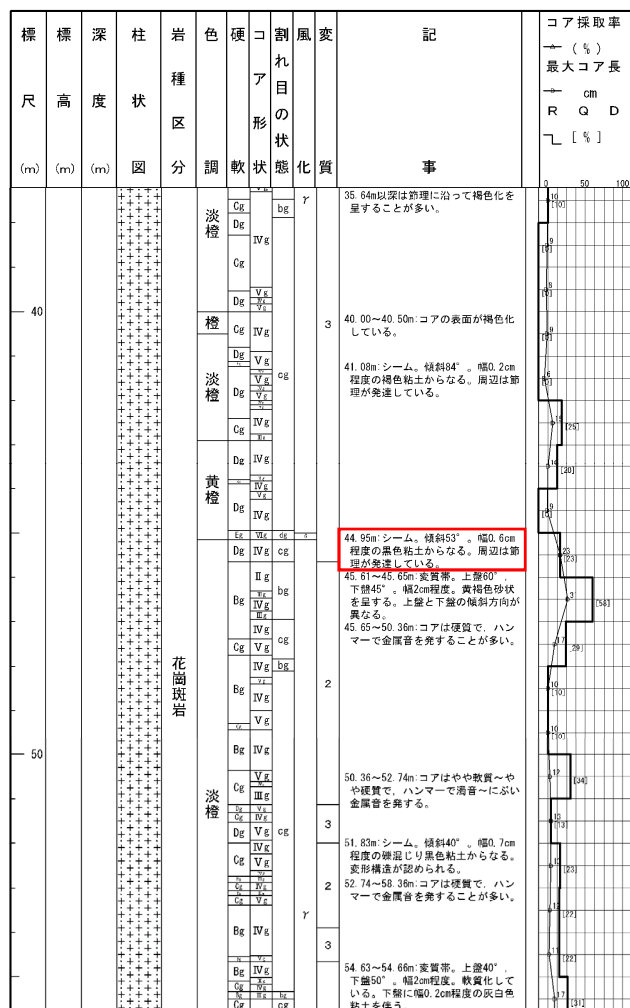
凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-2孔 深度44.95m)

一部で礫混じり粘土状を呈するが、礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

| 記事 |
|--|
| 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00~40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61~45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は45°である。 45.65~50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36~52.74m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74~58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63~54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。 |

審査資料

(平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00~40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61~45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は45°である。 45.65~50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36~52.74m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74~58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63~54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|----------------------------|----------------------------|
| 44.95m:シーム。傾斜53°。幅0.6cm程度の黒色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 | 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 |



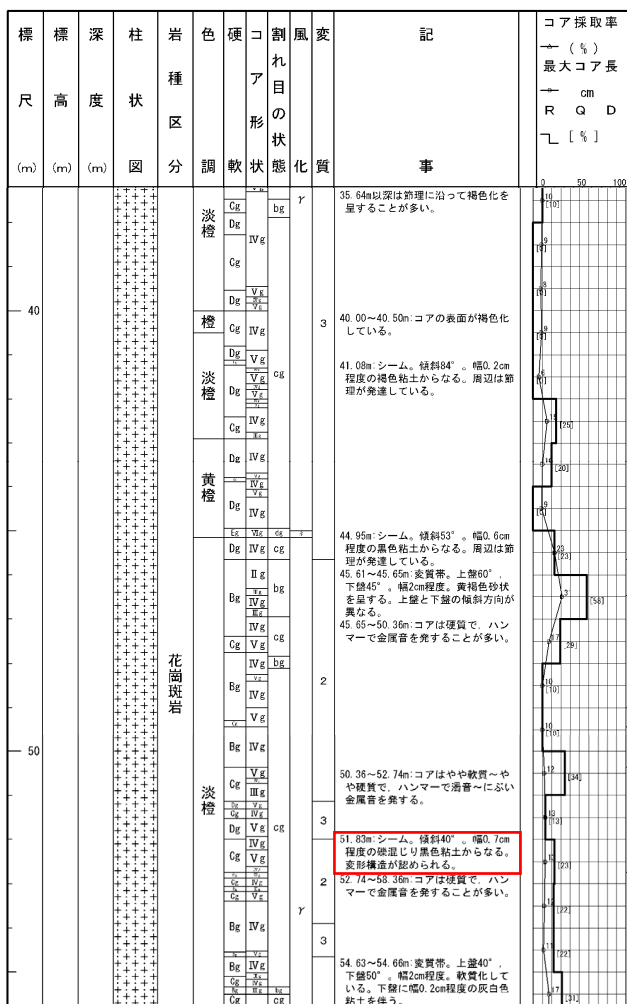
凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-2孔 深度51.83m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

| 記事 |
|--|
| 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00~40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61~45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は45°である。 45.65~50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36~52.74m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74~58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63~54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。 40.00~40.50m ・コアの表面が褐色化している。 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。 45.61~45.65m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は45°である。 45.65~50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 50.36~52.74m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 52.74~58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 54.63~54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|--------------------------------|--------------------------------|
| 51.83m:シーム。傾斜40°。幅0.7cm程度の礫混じり黒色粘土からなる。変形構造が認められる。 | 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 | 51.83m ・幅0.7cmの礫混じり黒色粘土である。 |

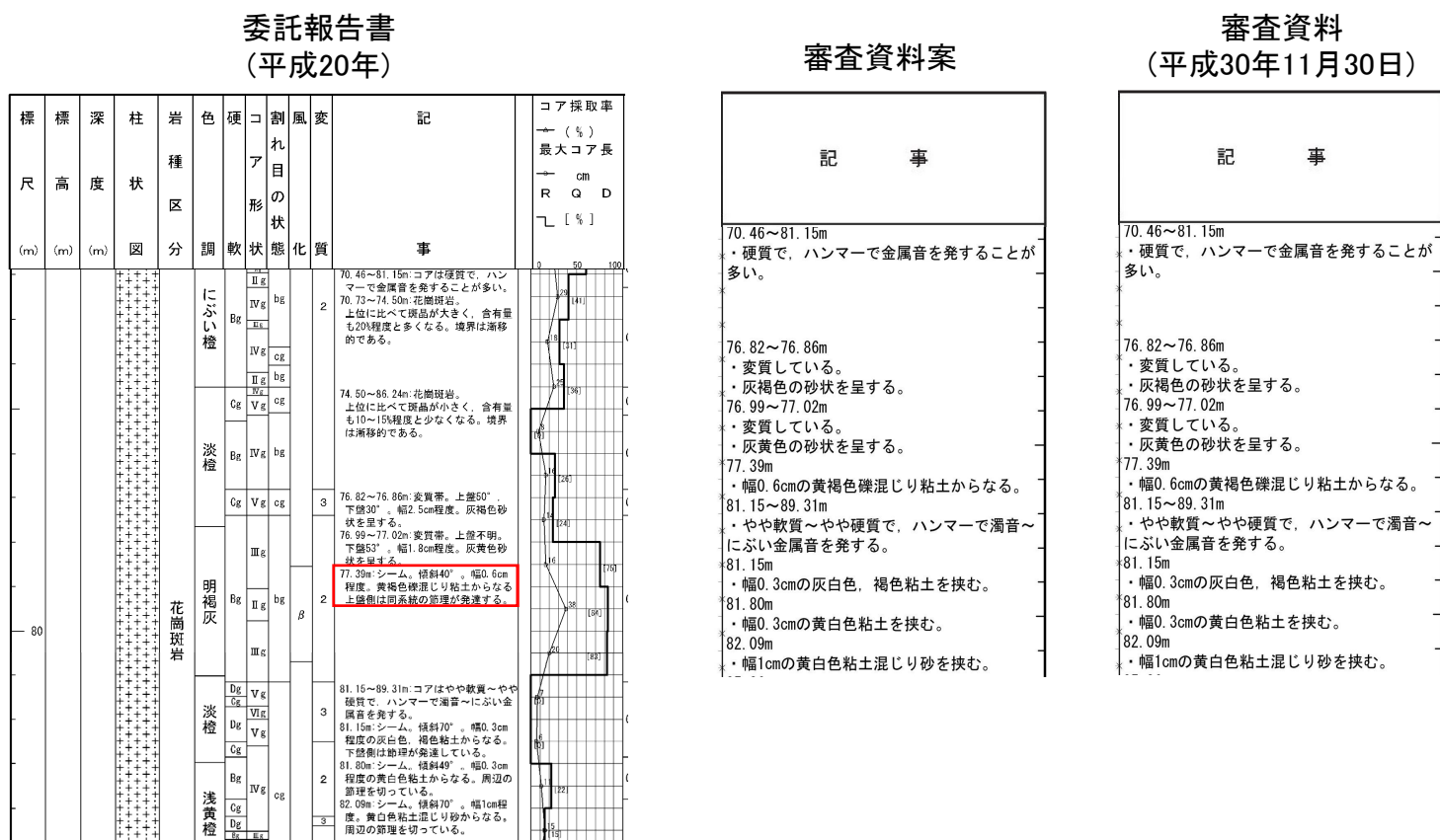


凡例
← :シーム

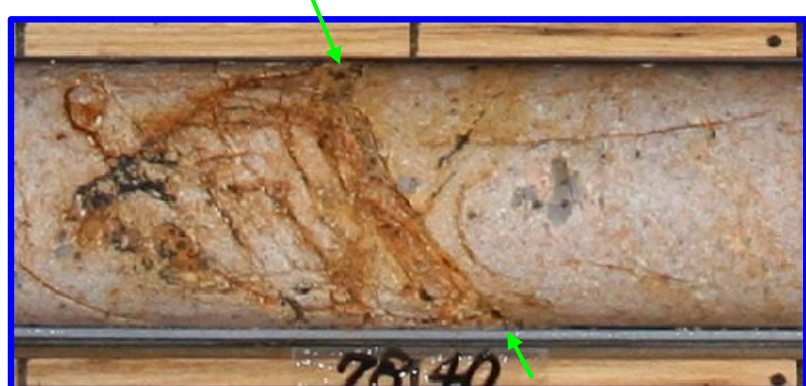
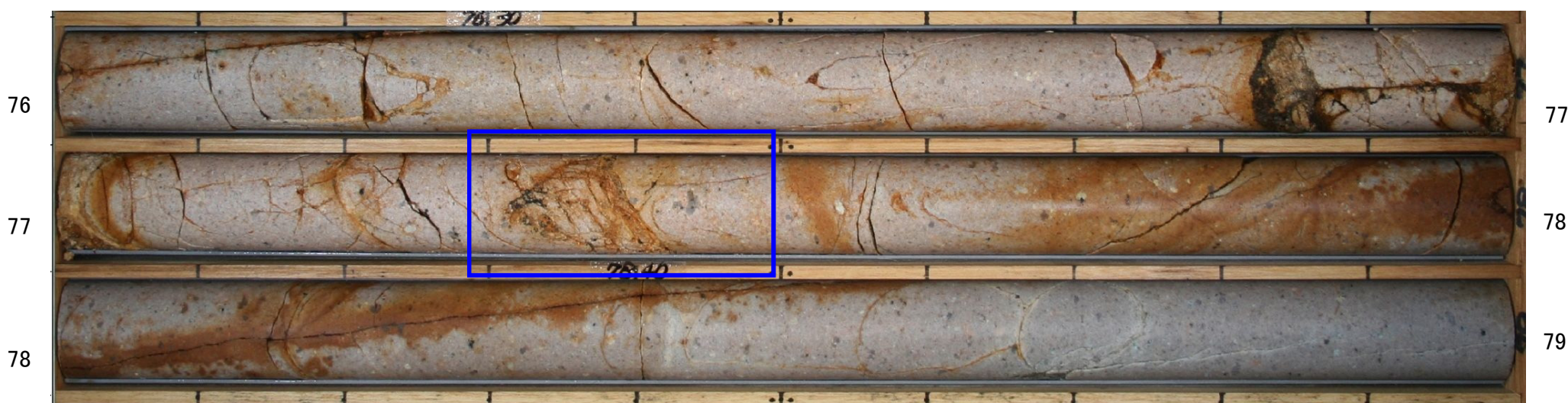
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-2孔 深度77.39m)

・シームと同系統の節理は連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|----------------------------------|----------------------------------|
| 77.39m:シーム。傾斜40°。幅0.6cm程度。黄褐色礫混じり粘土からなる。上層側は同系統の節理が発達する。 | 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。 | 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。 |



凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-2孔 深度81.15m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

| 委託報告書 (平成20年) | | | | | | | | | | 審査資料案 | | 審査資料 (平成30年11月30日) | | | | |
|------------------|-----|-----|----|------|----|----|--------|----|----|--|---|---|---|---|---|--|
| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状 | 岩種 | 色調 | 硬軟 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 記 | コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%] | 記事 | | 記事 | | |
| (m) | (m) | (m) | 図 | 区分 | | | | | | 事 | | 70.46~81.15m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 | | 70.46~81.15m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 | | |
| | | | | 花崗斑岩 | | | | | | 70.46~81.15m コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 70.73~74.50m 花崗斑岩。上位に比べて粒径が大きく、含有量も20%程度と多くなる。境界は漸移的である。 74.50~86.24m 花崗斑岩。上位に比べて粒径が小さく、含有量も10~15%程度と少なくなる。境界は漸移的である。 76.82~76.86m 変質帯。上盤50°、下盤30°。幅2.5cm程度。灰褐色砂状を呈する。 76.99~77.02m 変質帯。上盤不明、下盤53°。幅1.8cm程度。灰黄色砂状を呈する。 77.39m シーム。傾斜40°。幅0.6cm程度。黄褐色微細じり粘土からなる。上盤側は同系統の節理が発達する。 81.15~89.31m コアはやや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 81.15m シーム。傾斜70°。幅0.3cm程度の灰白色、褐色粘土からなる。下盤側は節理が発達している。 81.80m シーム。傾斜49°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周囲の節理を切っている。 82.09m シーム。傾斜70°。幅1cm程度。黄白色粘土混じり砂からなる。周囲の節理を切っている。 | | | 76.82~76.86m ・変質している。 ・灰褐色の砂状を呈する。 76.99~77.02m ・変質している。 ・灰黄色の砂状を呈する。 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色微細じり粘土からなる。 81.15~89.31m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。 | | 76.82~76.86m ・変質している。 ・灰褐色の砂状を呈する。 76.99~77.02m ・変質している。 ・灰黄色の砂状を呈する。 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色微細じり粘土からなる。 81.15~89.31m ・やや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。 | |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|--------------------------------|--------------------------------|
| 81.15m:シーム。傾斜70°。幅0.3cm程度の灰白色、褐色粘土からなる。下盤側は節理が発達している。 | 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。 | 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。 |

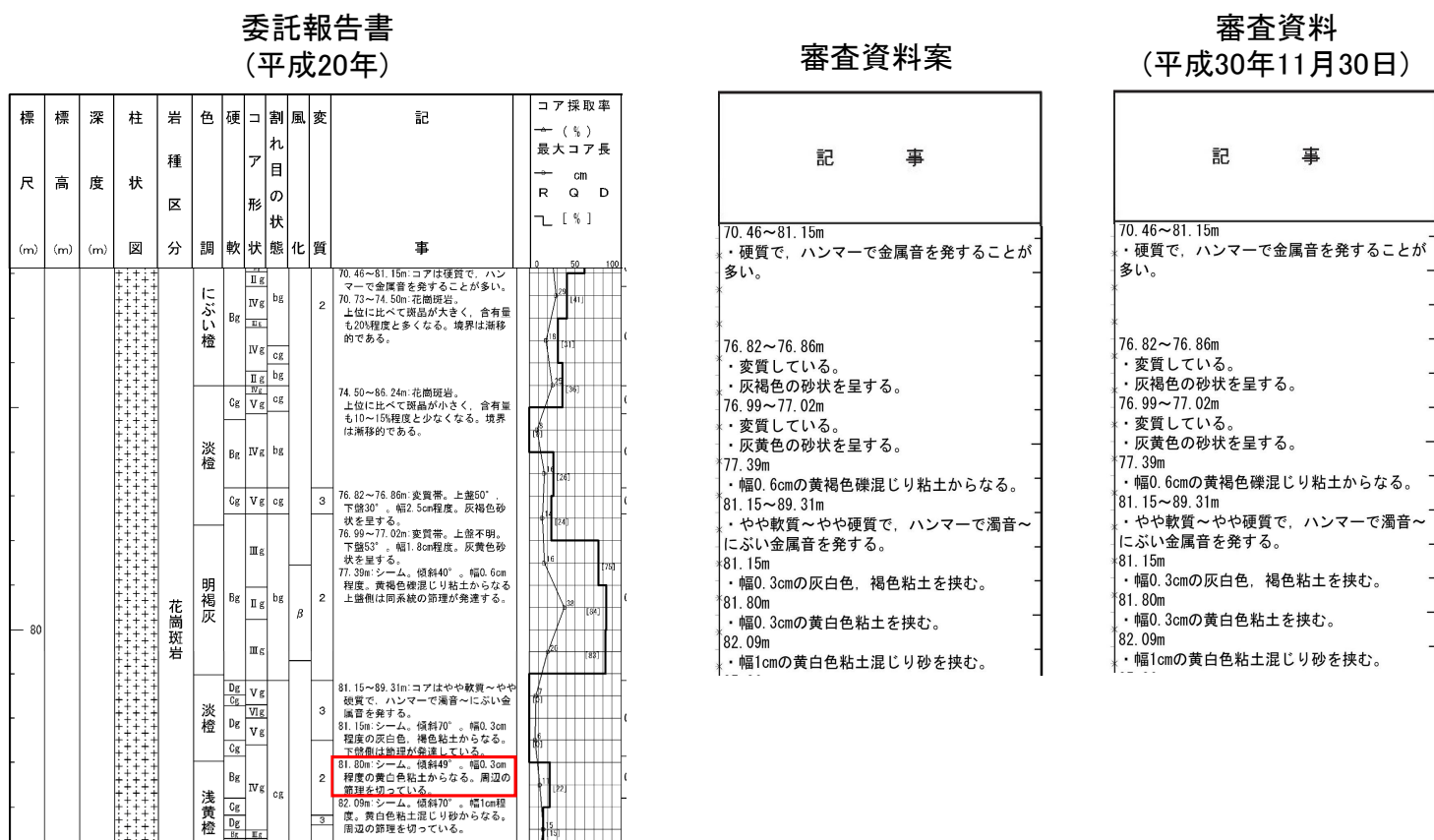


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-2孔 深度81.80m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-----------------------------|-----------------------------|
| 81.80m:シーム。傾斜49°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。 | 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。 | 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。 |

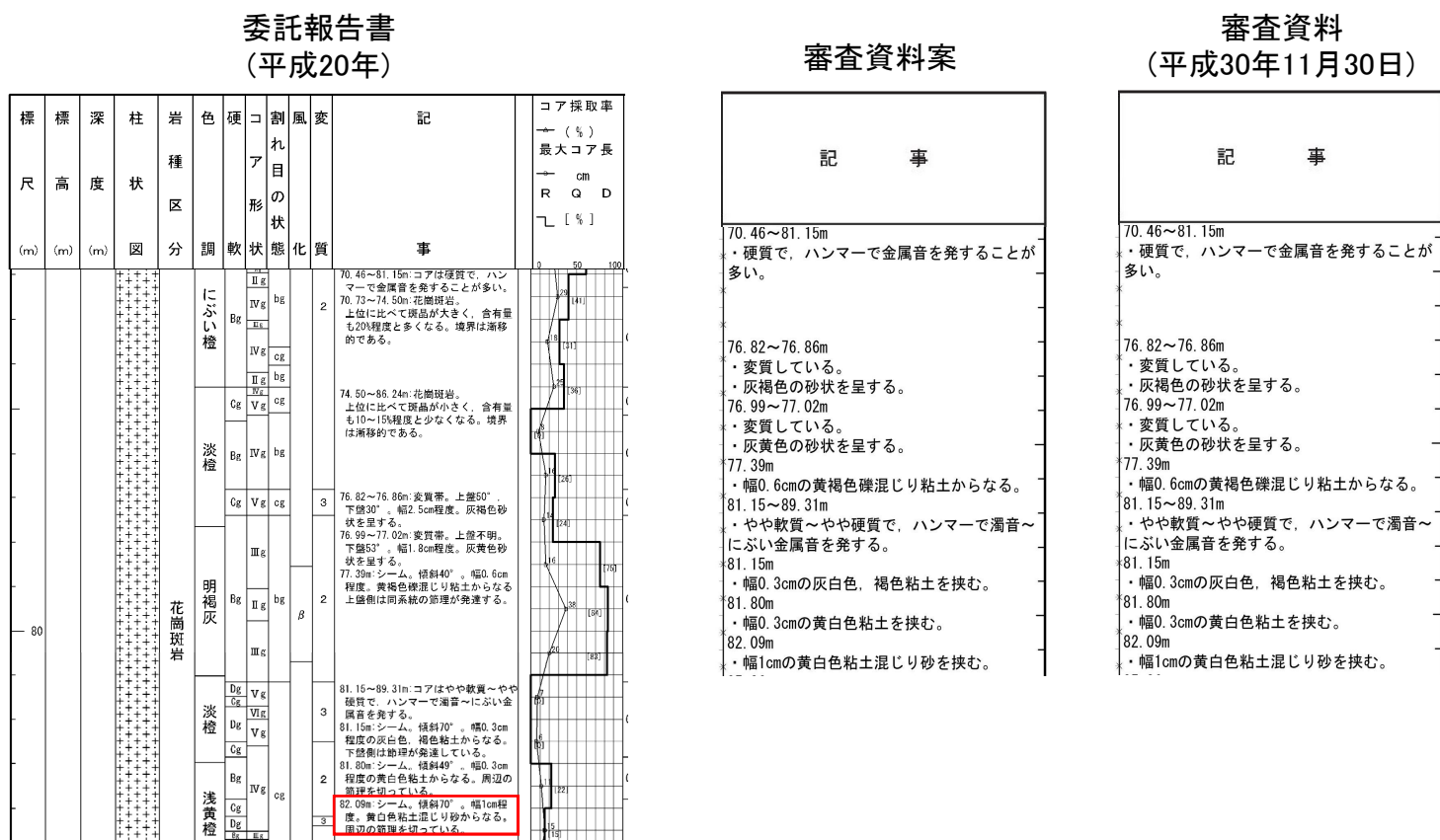


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-2孔 深度82.09m)

・砂状を呈するが、その分布は膨縮し直線性・連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------------------------------|-------------------------------|
| 82.09m:シーム。傾斜70°。幅1cm程度。黄白色粘土混じり砂からなる。周辺の節理を切っている。 | 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。 | 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。 |

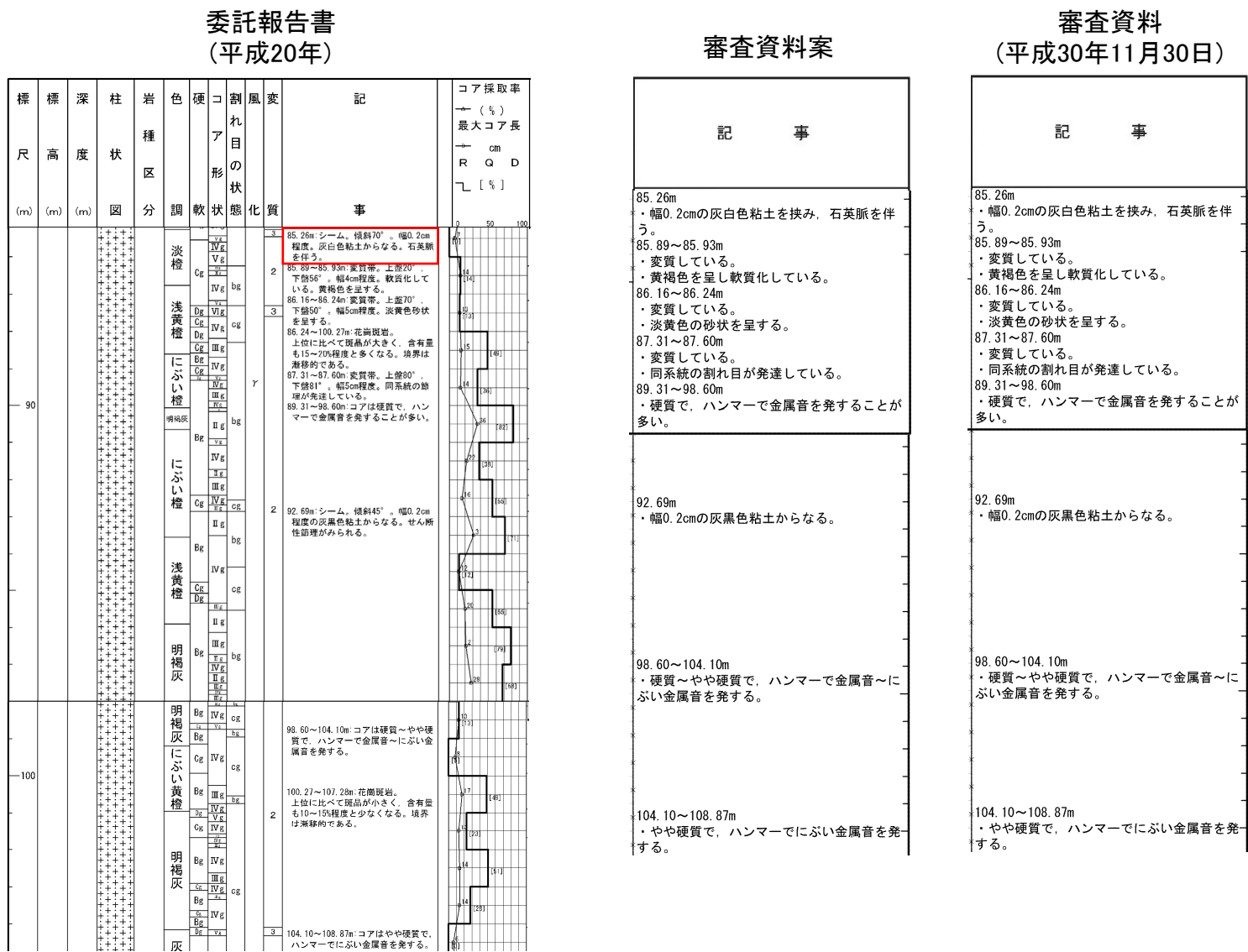


凡例
← シーム

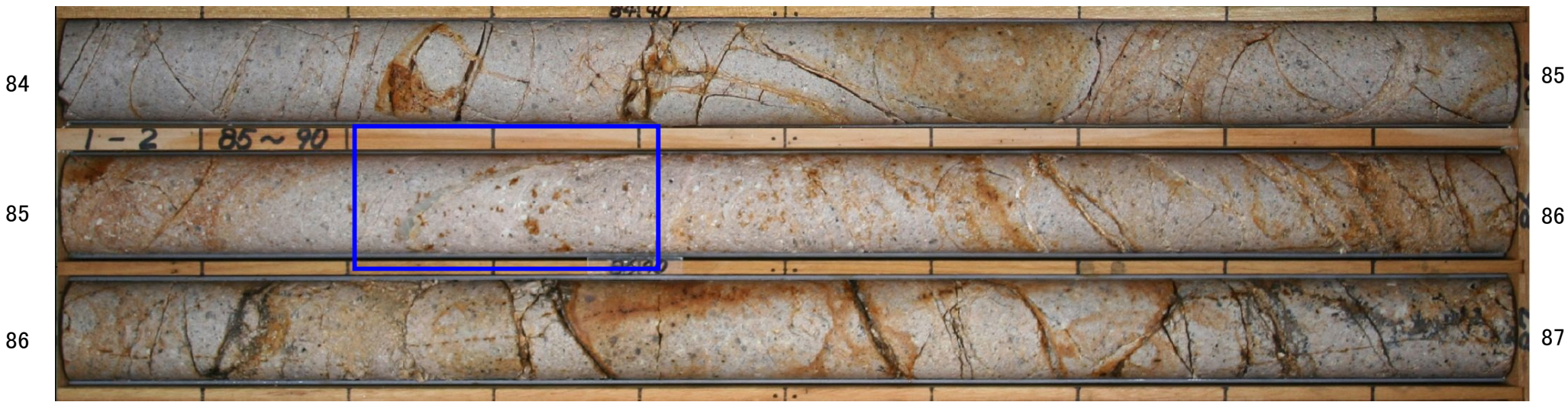
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-2孔 深度85.26m)

・砂状を呈するが、その分布は膨縮し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|------------------------------------|------------------------------------|
| 85.26mシーム。傾斜70°。幅0.2cm程度。灰白色粘土からなる。石英脈を伴う。 | 85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み、石英脈を伴う。 | 85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み、石英脈を伴う。 |

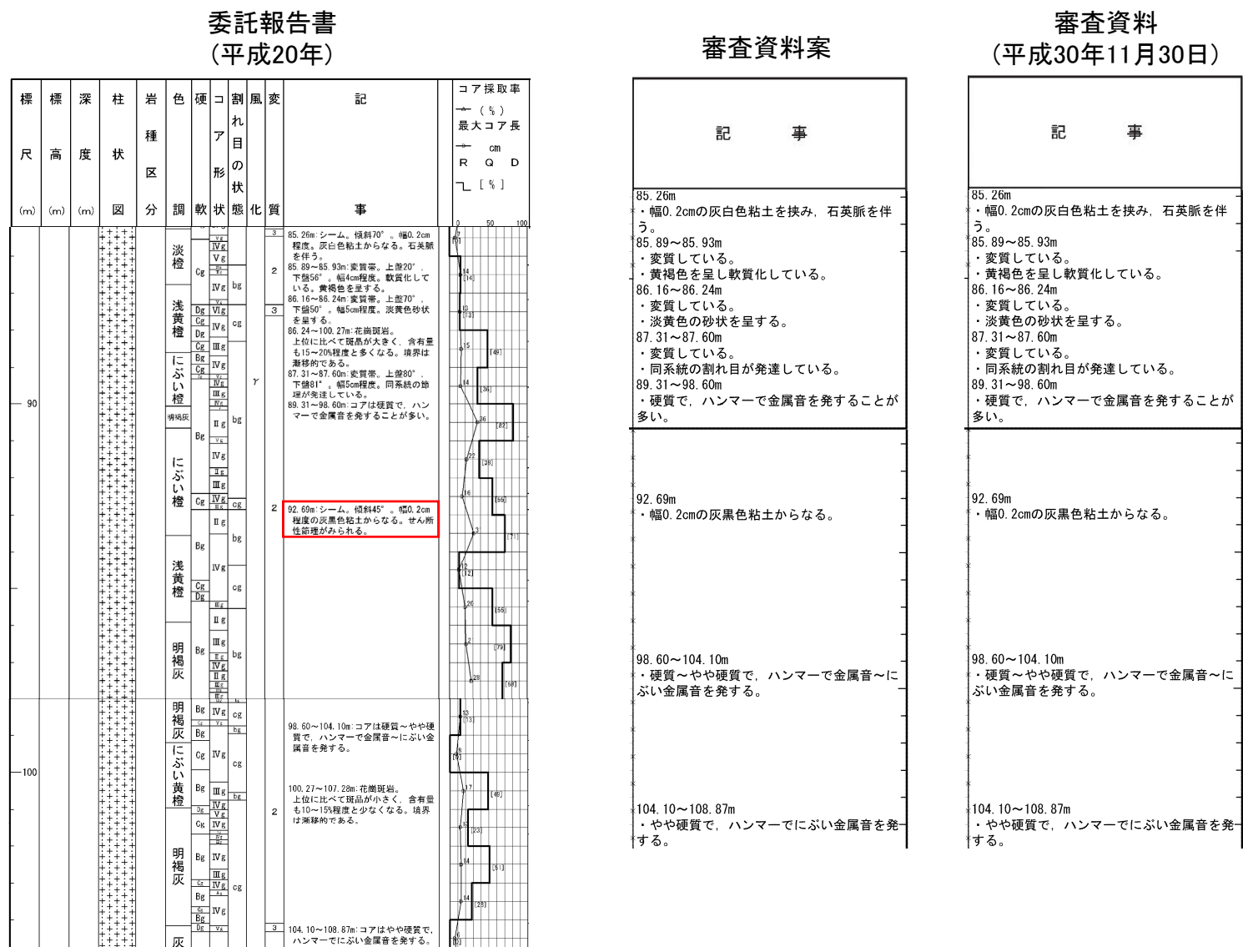


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-2孔 深度92.69m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|------------------------------|------------------------------|
| 92.69m:シーム、傾斜45°、幅0.2cm程度の灰黒色粘土からなる。せん断性節理がみられる。 | 92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。 | 92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。 |

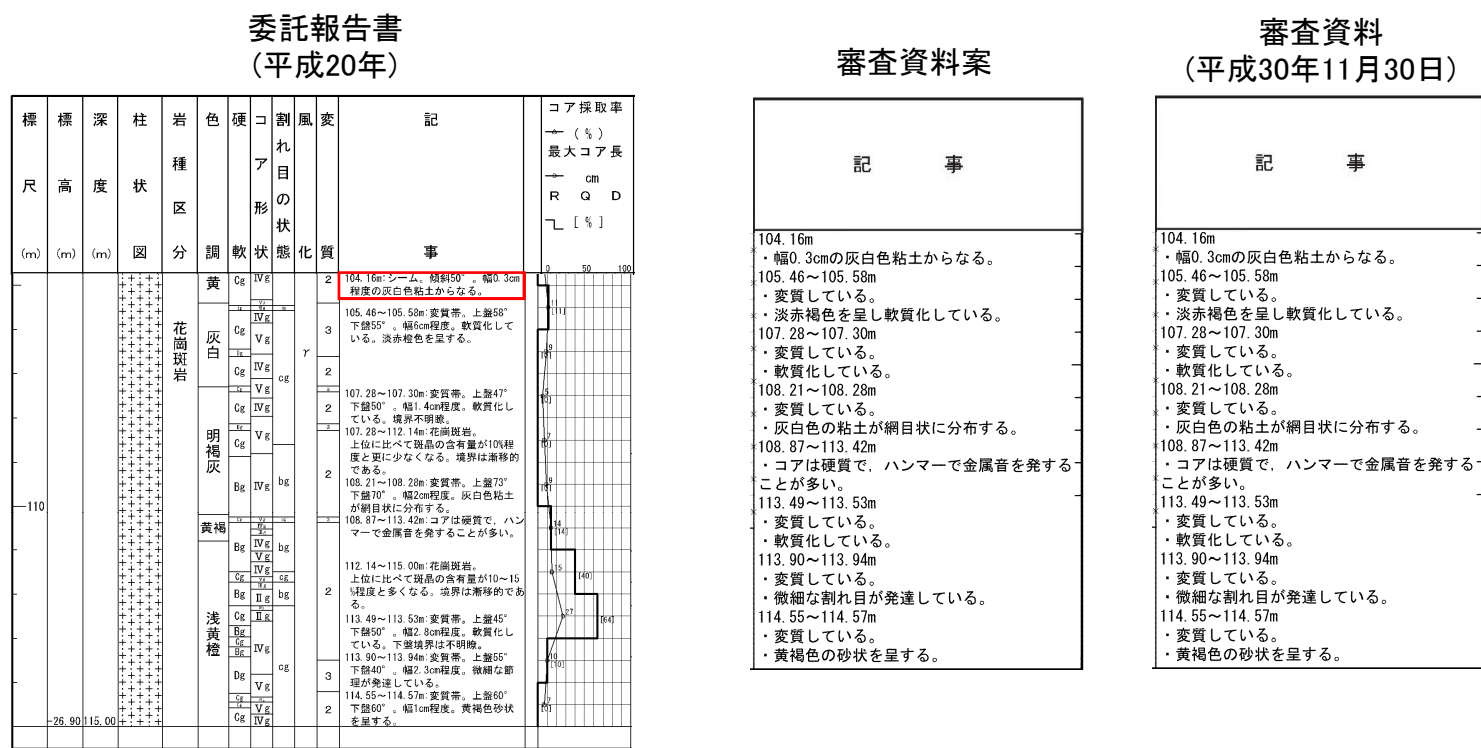


凡例
← :シーム

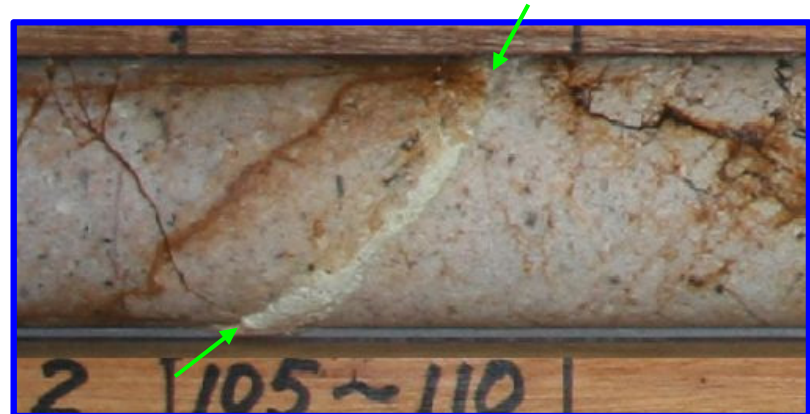
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-2孔 深度104.16m)

・砂状を呈するが、その分布は膨縮し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 104.16m:シーム。傾斜50°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。 | 104.16m ・幅0.3cmの灰白色粘土からなる。 | 104.16m ・幅0.3cmの灰白色粘土からなる。 |



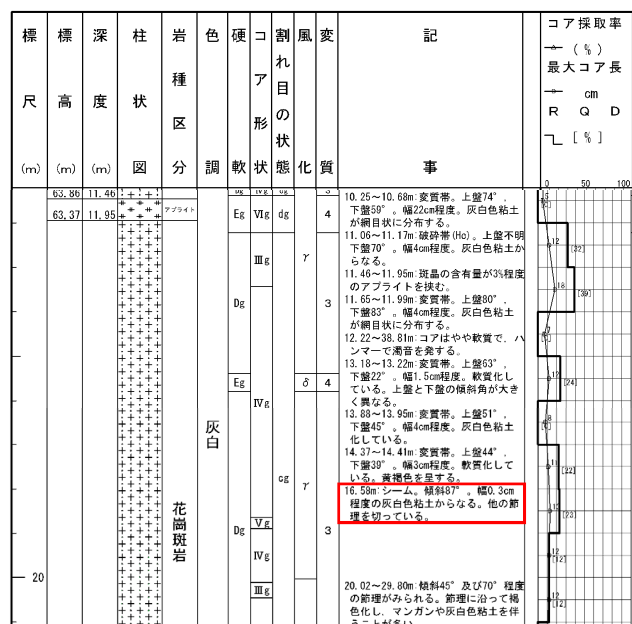
凡例
← :シーム



柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-3孔 深度16.58m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

| 記事 |
|---|
| 10.25~10.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●11.06~11.17m (f-①-3-4破碎帯) ・破碎部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は4.0cmである。 ・走向・傾斜はN11° W85° Wである。 ・下端境界の傾斜は70°である。 11.46~11.95m ・アブライトである。 11.65~11.99m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 12.22~38.81m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。 13.18~13.22m ・変質している。 13.88~13.95m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。 14.37~14.41m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|---|
| 10.25~10.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●11.06~11.17m (f-①-3-4破碎帯) ・破碎部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は4.0cmである。 ・走向・傾斜はN11° W85° Wである。 ・下端境界の傾斜は70°である。 11.46~11.95m ・アブライトである。 11.65~11.99m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 12.22~38.81m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。 13.18~13.22m ・変質している。 13.88~13.95m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。 14.37~14.41m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|-----------------------|
| 16.58m:シーム。傾斜87°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← :シーム

0 5 cm

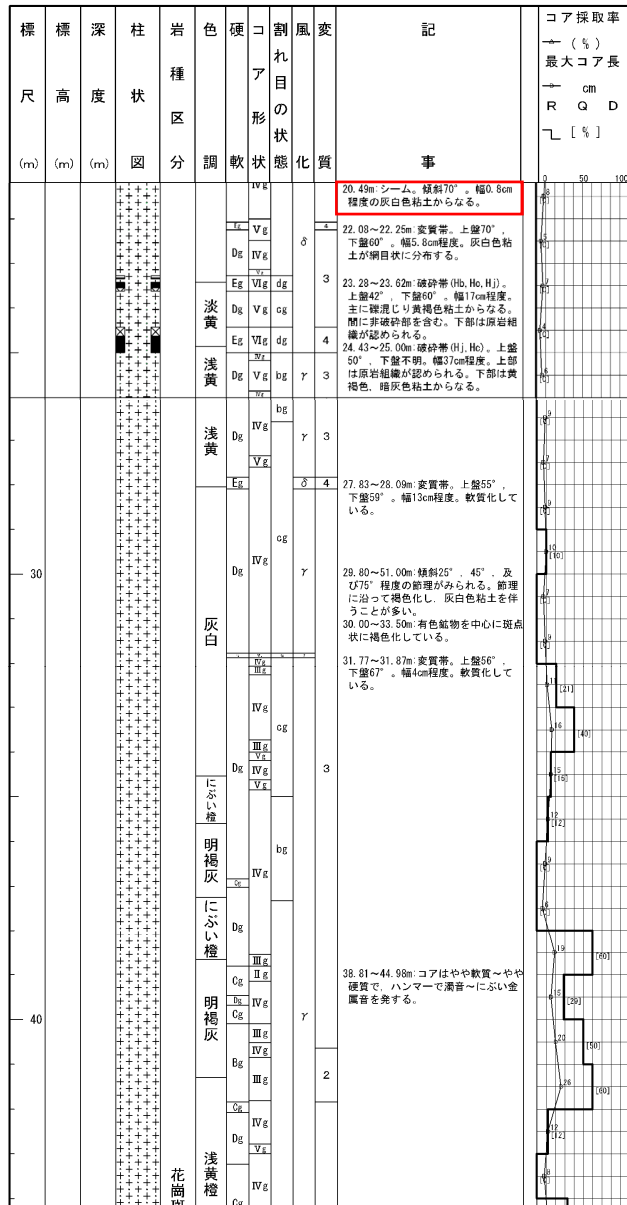
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-3孔 深度20.49m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



| 記事 |
|--|
| 22.08~22.25m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●23.28~23.62m (f-①-3-5破碎帯) ・破碎部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E48° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は42°、下端境界の傾斜は60°である。 ●24.43~25.00m (f-①-3-6破碎帯) ・破碎部である。 ・黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° W64° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は50°である。 29.80~51.00m ・割れ目沿いに褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。 30.00~33.50m ・斑点状に褐色化している。 31.77~31.87m ・変質している。 ・軟質化している。 |

| 記事 |
|--|
| 22.08~22.25m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●23.28~23.62m (f-①-3-5破碎帯) ・破碎部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E48° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は42°、下端境界の傾斜は60°である。 ●24.43~25.00m (f-①-3-6破碎帯) ・破碎部である。 ・黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° W64° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は50°である。 29.80~51.00m ・割れ目沿いに褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。 30.00~33.50m ・斑点状に褐色化している。 31.77~31.87m ・変質している。 ・軟質化している。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--------------------------------------|-------|-----------------------|
| 20.49m:シーム。傾斜70°。幅0.8cm程度の灰白色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |

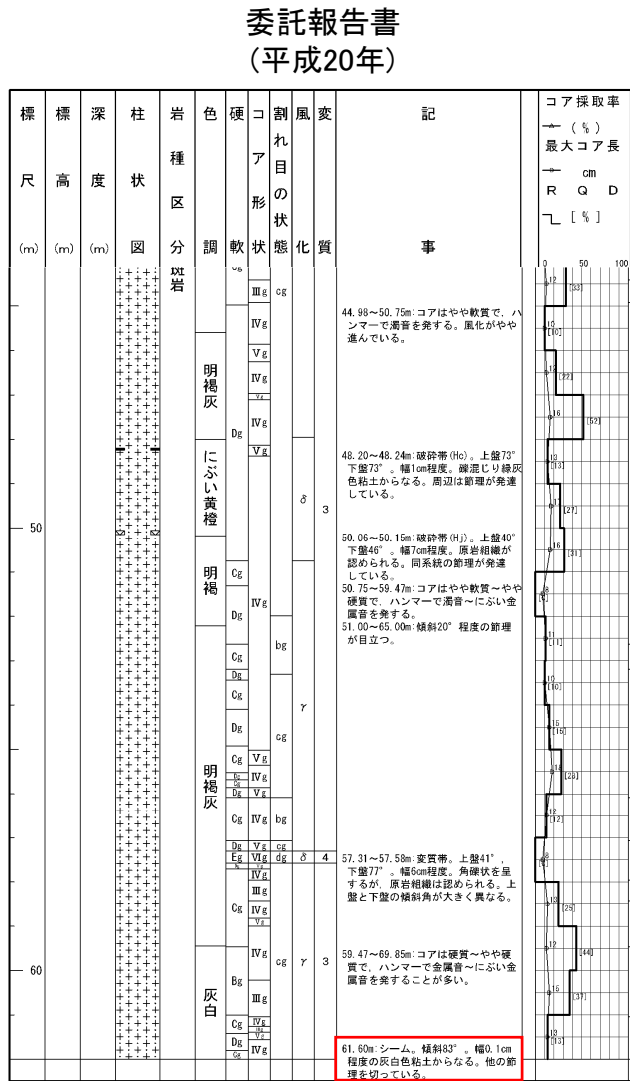


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-3孔 深度61.60m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

| 記事 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●48.20~48.24m (f-①-3-7破砕帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35° E69° Wである。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は73°である。 ●50.06~50.15m (f-①-3-8破砕帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38° E61° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は46°である。 51.00~65.00m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が目立つ。 57.31~57.58m <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・角礫状を呈するが、原岩組織は残る。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●48.20~48.24m (f-①-3-7破砕帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35° E69° Wである。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は73°である。 ●50.06~50.15m (f-①-3-8破砕帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38° E61° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は46°である。 51.00~65.00m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が目立つ。 57.31~57.58m <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・角礫状を呈するが、原岩組織は残る。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|--------------------|
| 61.60m: シーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-4孔 深度6.82m)

・破碎部と同系統の高角度な割れ目が分布し、組織が不明瞭となっている区間を一連の破碎部であると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。

| 委託報告書 (平成20年) | | | | | | | | | | 審査資料案 | | 審査資料 (平成30年11月30日) | | |
|------------------|------|----|-------|-----|----|----|------|--------|----|--|---|--|---|--|
| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状区分 | 岩種 | 色調 | 硬軟 | コア形状 | 割れ目の状態 | 風化 | 記 | コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%] | 記事 | 記事 | |
| 85.02 | 1.00 | | シルト質砂 | 明黄橙 | | | | | | 0.00~0.04m:黒色を呈する腐植土。 0.04~1.00m:マサ土。明黄橙色を呈するシルト質中粒砂からなる。 | 70 | 0.00~1.00m ・シルト質砂である。 0.00~0.04m ・有機質土である。 0.04~1.00m ・中粒砂主体である。 | 0.00~1.00m ・シルト質砂である。 0.00~0.04m ・有機質土である。 0.04~1.00m ・中粒砂主体である。 | |
| | | | アブライト | 灰白 | | | | | | 1.00~7.70m:アブライト。 全体に風化。風化し、原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。 1.00~14.65m:傾斜30°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 1.00~15.25m:コアは風化。変質し、軟質で、ハンマーで著しい割れ目を発する。 3.73~3.90m:赤色化著しい。 3.93~3.94m:変質帯。上盤85°、下盤85°。幅0.5cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.69~4.73m:変質帯。上盤7°、下盤26°。幅3.6cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.73~4.96m:赤色化著しい。 6.82m:シーム。傾斜60°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。 7.15~7.70m(破碎帯(Hc))。上盤63°、下盤68°。幅21cm程度。灰白色、一部赤褐色粘土からなる。 | 60 | 1.00~7.70m ・アブライトである。 ・原岩組織は不明瞭である。 ・所々でマンガンが濃集する。 1.00~14.65m ・割れ目沿いに褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 3.73~3.90m ・赤色化が著しい。 ●3.93~7.70m(D-5破碎帯) ・破碎部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部:累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。 | 60 | 1.00~7.70m ・アブライトである。 ・原岩組織は不明瞭である。 ・所々でマンガンが濃集する。 1.00~14.65m ・割れ目沿いに褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 3.73~3.90m ・赤色化が著しい。 ●3.93~7.70m(D-5破碎帯) ・破碎部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部:累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|--|--|
| 3.93~3.94m:変質帯。上盤85°、下盤85°。幅0.5cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.69~4.73m:変質帯。上盤7°、下盤26°。幅3.6cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.73~4.96m:赤色化著しい。 6.82m:シーム。傾斜60°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。 7.15~7.70m:破碎帯(Hc)。上盤63°、下盤68°。幅21cm程度。灰白色、一部赤褐色粘土からなる。 | ●3.93~7.70m(D-5破碎帯) ・破碎部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部:累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。 | ●3.93~7.70m(D-5破碎帯) ・破碎部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部:累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。 |



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-4孔 深度10.91m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状図 | 岩種 | 色調 | 硬軟 | 割れ目の形状 | 風変質 | 記事 | コア採取率 (%) | 最大コア長 (cm) |
|-------|-------|----|-----|-------|-----|----|--------|-----|--|-----------|------------|
| 77.05 | 8.97 | | | アブライト | | | | | 7.55~8.42m 赤色~褐色化が著しい。7.70~9.83m 花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。全層に黒化、変質し、節理は不明瞭である。両者の境界は漸移的である。 | 90 | 50 |
| 76.52 | 9.50 | | | 花崗斑岩 | 淡橙 | | | | 9.83~90.00m 花崗斑岩主体。径1~15mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~30%程度含む。下部ほど石英、長石の斑晶が大きい傾向が認められる。 | 90 | 50 |
| 76.19 | 9.83 | | | アブライト | 明赤褐 | | | | 10.73~13.00m 赤色化が著しい。10.73~14.66m 節理に沿ってマンガンが分布する。 | 90 | 50 |
| 73.32 | 12.70 | | | 花崗斑岩 | 浅黄橙 | | | | 10.91m シーム。傾斜66°。幅0.3cm程度の褐色、灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。 | 90 | 50 |
| 72.42 | 13.60 | | | 花崗斑岩 | 浅黄橙 | | | | 11.29m シーム。傾斜64°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周囲は節理が発達している。 | 90 | 50 |
| | | | | 花崗斑岩 | 浅黄橙 | | | | 12.70~13.60m 斑晶の含有量が5%程度のアブライトを含む。 | 90 | 50 |
| | | | | 花崗斑岩 | 浅黄橙 | | | | 12.70~15.25m 傾斜70°。上部は原始節理が認められる部分が多いが、下部は灰白色粘土からなる。変形構造が顕著にみられる。 | 90 | 50 |

審査資料案

| 記事 |
|--|
| 7.55~8.42m ・赤~褐色化が著しい。 |
| 7.70~9.83m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 |
| 9.83~90.00m ・花崗斑岩が主体である。 |
| 10.73~13.00m ・赤色化が著しい。 |
| 10.73~14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 |
| ●12.25~12.26m (f-①-2-2破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・灰白色の固結礫状部からなる。 |
| ・フィルム状の粘土を挟在する。 |
| ・境界の傾斜は40°である。 |
| 12.70~13.60m ・アブライトである。 |
| ●12.70~15.25m (D-6破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・正断層センスである。 |
| ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 |
| ・灰白色の未固結粘土状部。累計幅6.8cm |
| ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 |
| ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 7.55~8.42m ・赤~褐色化が著しい。 |
| 7.70~9.83m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 |
| 9.83~90.00m ・花崗斑岩が主体である。 |
| 10.73~13.00m ・赤色化が著しい。 |
| 10.73~14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 |
| ●12.25~12.26m (f-①-2-2破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・灰白色の固結礫状部からなる。 |
| ・フィルム状の粘土を挟在する。 |
| ・境界の傾斜は40°である。 |
| 12.70~13.60m ・アブライトである。 |
| ●12.70~15.25m (D-6破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・正断層センスである。 |
| ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 |
| ・灰白色の未固結粘土状部。累計幅6.8cm |
| ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 |
| ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|-----------------------|
| 10.91m:シーム。傾斜66°。幅0.3cm程度の褐色、灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-4孔 深度11.28m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状図 | 岩種 | 色調 | 硬軟 | 割れ目の形状 | 風変質 | 記事 | コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%] |
|-------|-------|----|-----|-------|-----|----|--------|-----|---|---|
| 77.05 | 8.97 | | | アフライト | | | | | 7.55~8.42m 赤色~褐色化が著しい。7.70~9.83m 花崗斑岩とアフライトが互層状に分布する。全体に風化、変質し、原岩組織は不明瞭である。両者の境界は漸移的である。 | 90 |
| 76.52 | 9.50 | | | 花崗斑岩 | 淡橙 | | | | 9.83~9.90m 花崗斑岩主体。径1~15mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~30%程度含む。下部ほど石英、長石の斑晶が大きい傾向が認められる。 | 90 |
| 76.19 | 9.83 | | | アフライト | 明赤褐 | | | | 10.73~13.00m 赤色化著しい。10.73~14.66m 節理に沿ってマンガンが分布する。 | 90 |
| 73.32 | 12.70 | | | 花崗斑岩 | 浅黄橙 | | | | 10.91m シーム。傾斜66°。幅0.3cm程度の褐色。灰白色粘土からなる。節理を挟んで分布している。 | 90 |
| 72.42 | 13.60 | | | アフライト | | | | | 11.28m シーム。傾斜64°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | 90 |
| | | | | アフライト | | | | | 12.70~13.90m 斑晶の含有量が5%程度のアフライトを指す。 | 90 |
| | | | | アフライト | | | | | 12.70~15.25m 破碎帯(H, H)。上部72°。下縁70°。幅87cm程度。上部は兼断層帯が認められる部分が多いが、下部は灰白色粘土からなる。変形構造が顕著にみられる。 | 90 |

審査資料案

| 記事 |
|--|
| 7.55~8.42m ・赤~褐色化が著しい。 7.70~9.83m ・花崗斑岩とアフライトが互層状に分布する。 |
| 9.83~9.90.00m ・花崗斑岩が主体である。 |
| 10.73~13.00m ・赤色化が著しい。 |
| 10.73~14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 |
| ●12.25~12.26m (f-①-2-2破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・灰白色の固結礫状部からなる。 |
| ・フィルム状の粘土を挟在する。 |
| ・境界の傾斜は40°である。 |
| 12.70~13.60m ・アフライトである。 |
| ●12.70~15.25m (D-6破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・正断層センスである。 |
| ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 |
| ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm |
| ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 |
| ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 7.55~8.42m ・赤~褐色化が著しい。 7.70~9.83m ・花崗斑岩とアフライトが互層状に分布する。 |
| 9.83~9.90.00m ・花崗斑岩が主体である。 |
| 10.73~13.00m ・赤色化が著しい。 |
| 10.73~14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。 |
| ●12.25~12.26m (f-①-2-2破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・灰白色の固結礫状部からなる。 |
| ・フィルム状の粘土を挟在する。 |
| ・境界の傾斜は40°である。 |
| 12.70~13.60m ・アフライトである。 |
| ●12.70~15.25m (D-6破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・正断層センスである。 |
| ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 |
| ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm |
| ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 |
| ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|-----------------------|
| 11.28m:シーム。傾斜64°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |

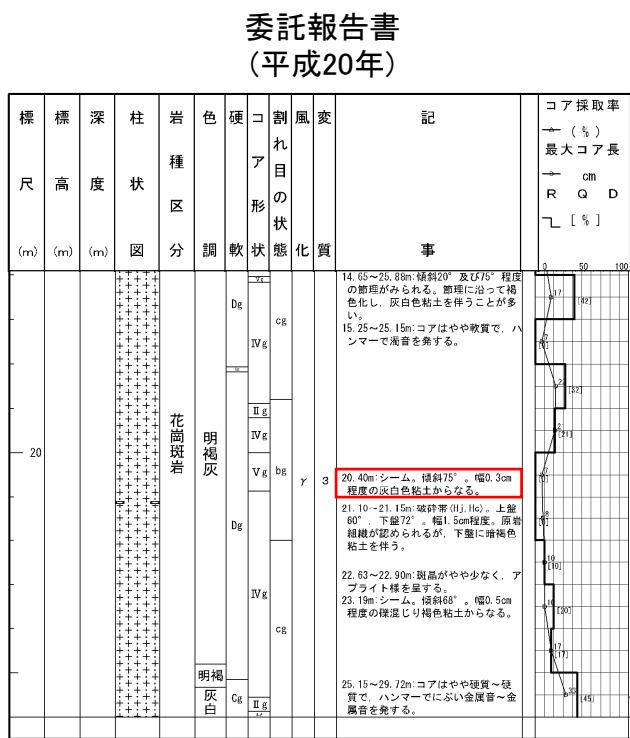


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-4孔 深度20.40m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事

記事

●21.10~21.15m (f-①)-4-3破碎帯)
・破碎部である。
・明褐色の固結状態からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

●21.10~21.15m (f-①)-4-3破碎帯)
・破碎部である。
・明褐色の固結状態からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|-------------------------------------|-------|-----------------------|
| 20.40mシーム。傾斜75°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |



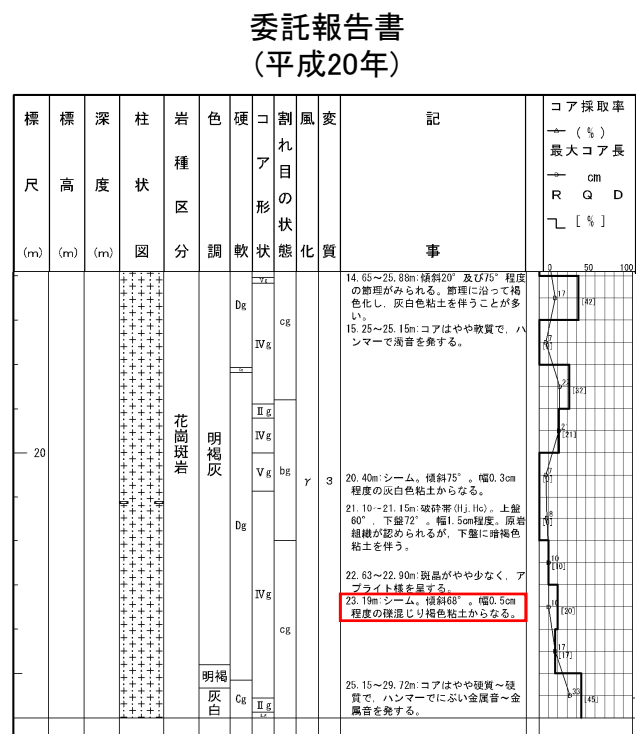
凡例

← シーム

0 ————— 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-4孔 深度23.19m)

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記 事

**審査資料
(平成30年11月30日)**

記 事

●21.10~21.15m (f-①-4-3破碎帯)
・破碎部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟む。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

●21.10~21.15m (f-①-4-3破碎帯)
・破碎部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟む。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|-----------------------|
| 23.19m:シーム。傾斜68°。幅0.5cm程度の硬混じり褐色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |



凡 例

← :シーム

0 5 cm

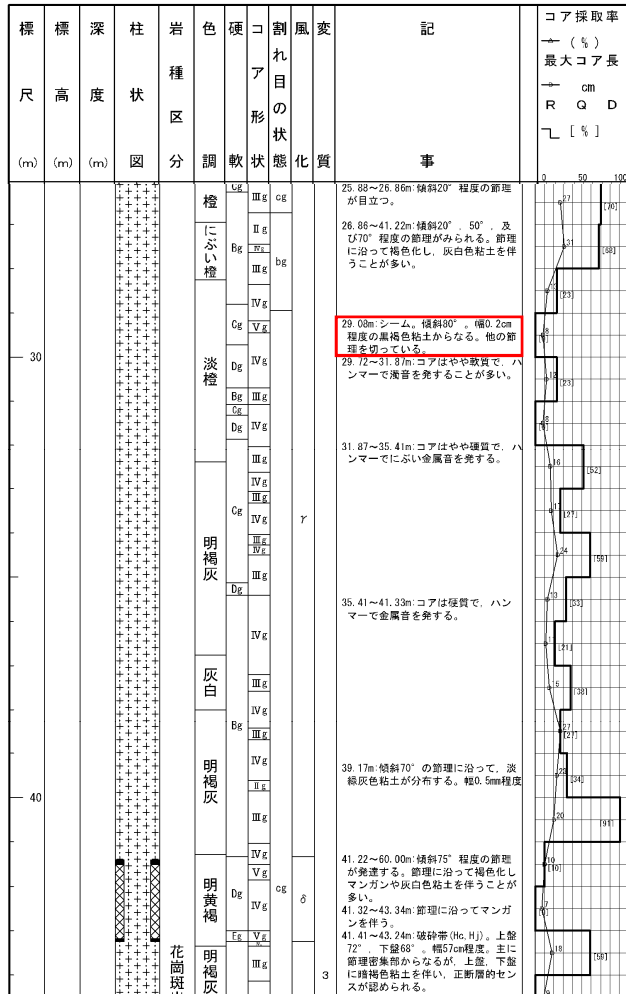
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-4孔 深度29.08m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



| 記事 |
|-------------------------------|
| 25.88~26.86m ・低角度の割れ目が目立つ。 |

| 記事 |
|-------------------------------|
| 25.88~26.86m ・低角度の割れ目が目立つ。 |

| |
|---|
| 29.72~31.87m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。 ●31.63~31.87m (f-①-3-5破砕帯) ・破砕部である。 ・淡褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E55° Wである。 31.87~41.33m ・割れ目が多く、柱状を呈する。 |
|---|

| |
|---|
| 29.72~31.87m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。 ●31.63~31.87m (f-①-3-5破砕帯) ・破砕部である。 ・淡褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E55° Wである。 31.87~41.33m ・割れ目が多く、柱状を呈する。 |
|---|

| |
|---|
| 41.32~43.34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。 ●41.41~43.24m (D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は68°である。 |
|---|

| |
|---|
| 41.32~43.34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。 ●41.41~43.24m (D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は68°である。 |
|---|

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|-----------------------|
| 29.08mシーム、傾斜80°、幅0.2cm程度の黒褐色粘土からなる。他の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |

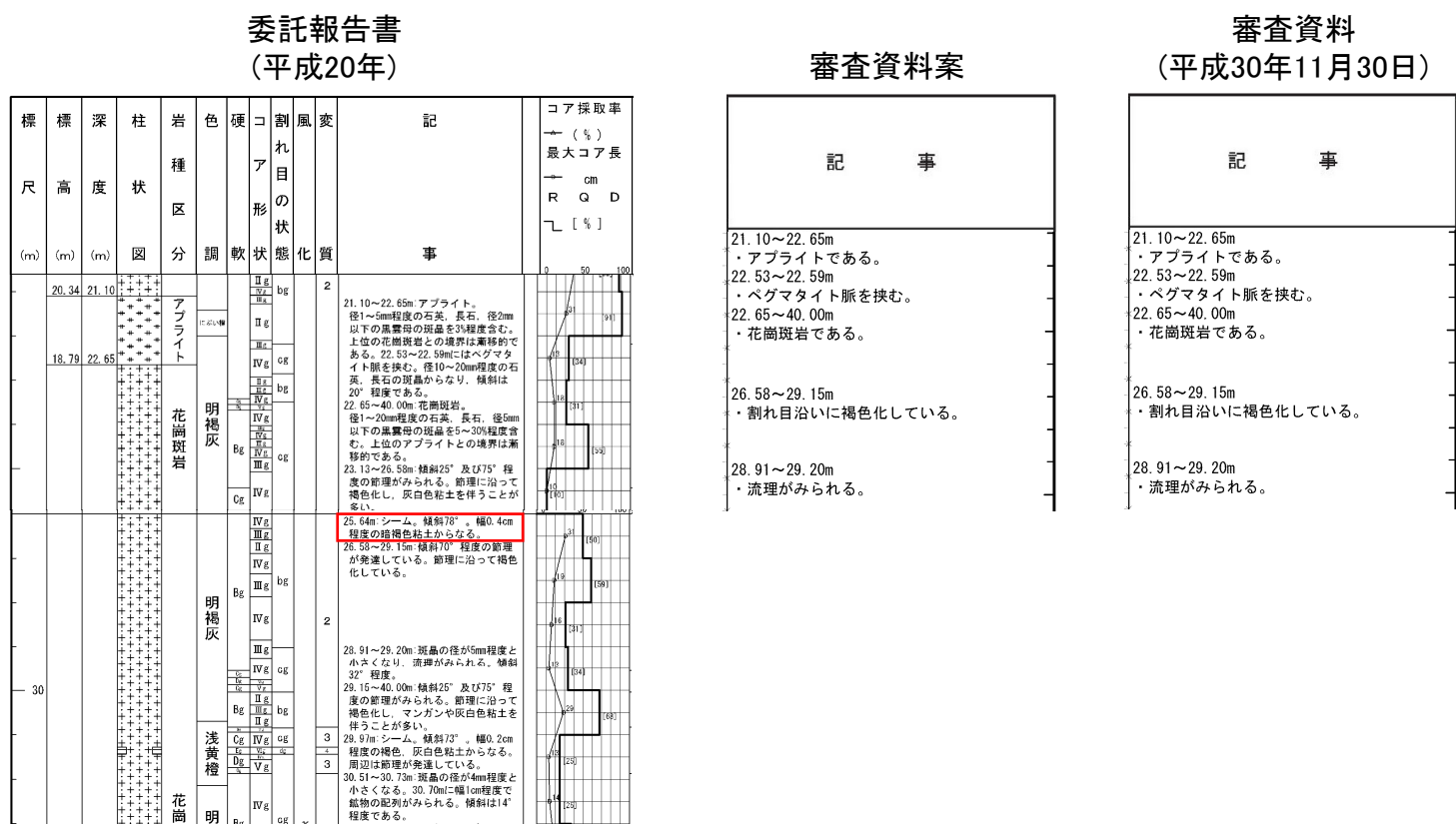


凡例
← : シーム

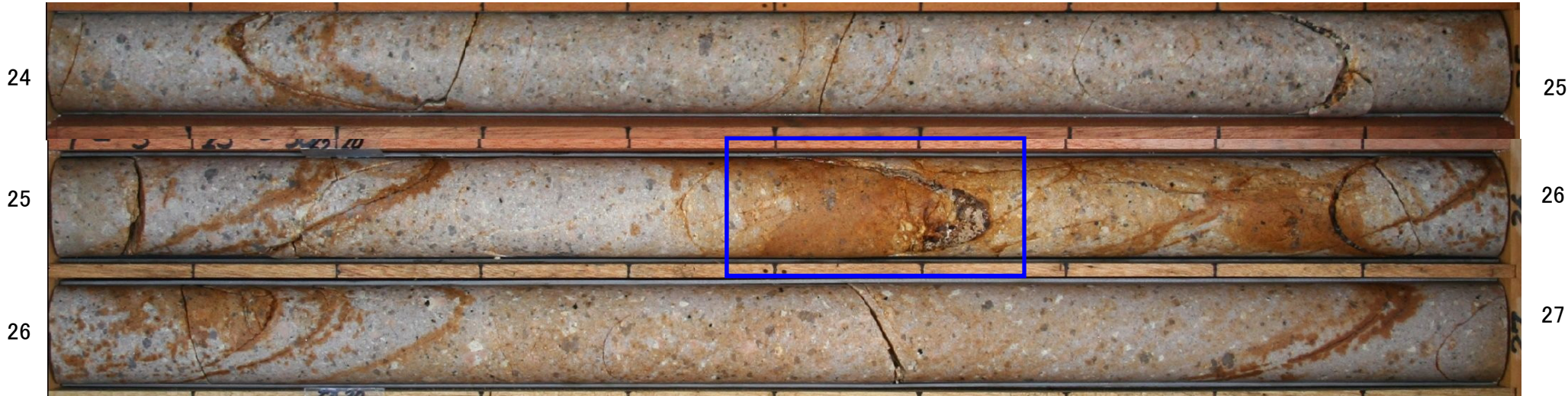
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-5孔 深度25.64m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--------------------------------------|-------|-----------------------|
| 25.64m:シーム。傾斜78°。幅0.4cm程度の暗褐色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |

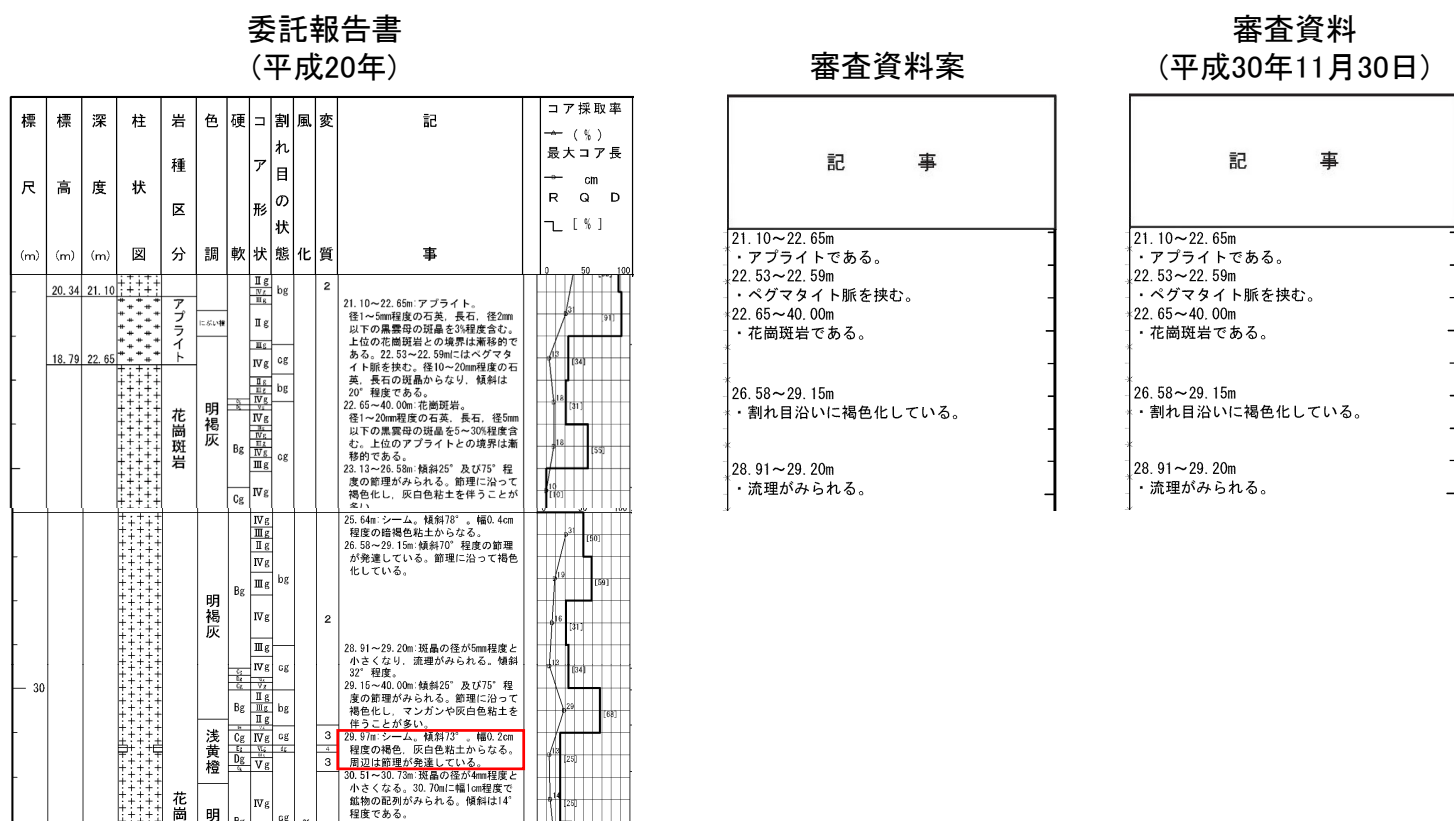


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-5孔 深度29.97m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。上盤側の岩盤は機械割れにより乱れている。



| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|-----------------------|
| 29.97m:シーム。傾斜73°。幅0.2cm程度の褐色。灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-5孔 深度30.85m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状 | 岩種 | 色 | 硬軟 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 記 | コア採取率 |
|------|-------|-----|----|-----|-----|----|--------|----|----|--|---|
| (m) | (m) | (m) | 図 | 区分 | 調 | 軟 | 状 | 化 | 質 | 事 | (%) |
| 1.44 | 40.00 | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 30.85m シーム、傾斜74°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。これより下盤側は節理が発達している。 | コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D □ [%] |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 31.28~31.44m 破碎部 (Hb)。上層72°下層74°。幅50cm程度。緑色粘土からなる。 | |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 31.78m シーム、傾斜72°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 34.12~35.03m コアはやや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 | |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 34.37~35.70m 破碎部 (Hb)。上層64°下層不明。幅15cm程度。緑色粘土からなる。 | |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 35.18~35.42m マンガンを伴う傾斜75°程度の節理が発達している。 | |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 36.03~40.00m コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 | |
| | | | | 凝灰岩 | 緑灰色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 38.93~40.00m 斑晶の径が10mm以下と上位に比べて小さくなる。上位との境界は傾斜70°程度。 | |

審査資料案

| 記事 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●31.28～31.44m (D-43破碎部) ・破碎部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN33° W75° Wである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●34.37～34.70m ・破碎部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN89° W58° Sである。 35.18～35.42m ・マンガンを伴う割れ目が発達している。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●31.28～31.44m (D-43破碎部) ・破碎部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN33° W75° Wである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●34.37～34.70m ・破碎部である。 ・灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN89° W58° Sである。 35.18～35.42m ・マンガンを伴う割れ目が発達している。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|--------------------|
| 30.85m:シーム。傾斜74°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。これより下盤側は節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-5孔 深度31.78m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状 | 岩種 | 色 | 硬軟 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 記 | コア採取率 |
|------|-------|-----|----|----|----|----|--------|----|----|---|--|
| (m) | (m) | (m) | 区分 | 調 | 調 | 調 | 調 | 調 | 調 | 事 | (%) |
| 1.44 | 40.00 | | | 斑岩 | 褐色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 30.85m シーム。傾斜74°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。これより下層部は節理が発達している。31.28~31.44m 破碎帯 (H)。上層72°下層74°。幅50cm程度。緑泥シリカ黄褐色粘土からなる。 | → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%] |
| | | | | 斑岩 | 褐色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 31.78m シーム。傾斜72°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | |
| | | | | 斑岩 | 褐色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 34.12~35.03m コアはやや軟質~やや硬質で、ハンマーで濁音~にぶい金属音を発する。34.37~34.70m 破碎帯 (H)。上層64°下層不明。幅15cm程度。緑泥シリカ黄褐色粘土からなる。 | |
| | | | | 斑岩 | 褐色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 35.18~35.42m マンガンを伴う傾斜75°程度の節理が発達している。 | |
| | | | | 斑岩 | 褐色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 35.03~40.00m コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。 | |
| | | | | 斑岩 | 褐色 | 硬 | 割れ目の形状 | 風化 | 変質 | 38.93~40.00m 斑晶の径が10mm以下と上位に比べて小さくなる。上位との境界は傾斜70°程度。 | |

審査資料案

| 記事 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●31.28~31.44m (D-43破碎帯) ・破碎部である。 ・灰黄色の固結状態部からなる。 ・走向・傾斜はN33° W75° Wである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●34.37~34.70m ・破碎部である。 ・灰黄色の固結状態部からなる。 ・走向・傾斜はN89° W58° Sである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 35.18~35.42m ・マンガンを伴う割れ目が発達している。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●31.28~31.44m (D-43破碎帯) ・破碎部である。 ・灰黄色の固結状態部からなる。 ・走向・傾斜はN33° W75° Wである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●34.37~34.70m ・破碎部である。 ・灰黄色の固結状態部からなる。 ・走向・傾斜はN89° W58° Sである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 35.18~35.42m ・マンガンを伴う割れ目が発達している。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|-----------------------|
| 31.78m:シーム。傾斜72°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



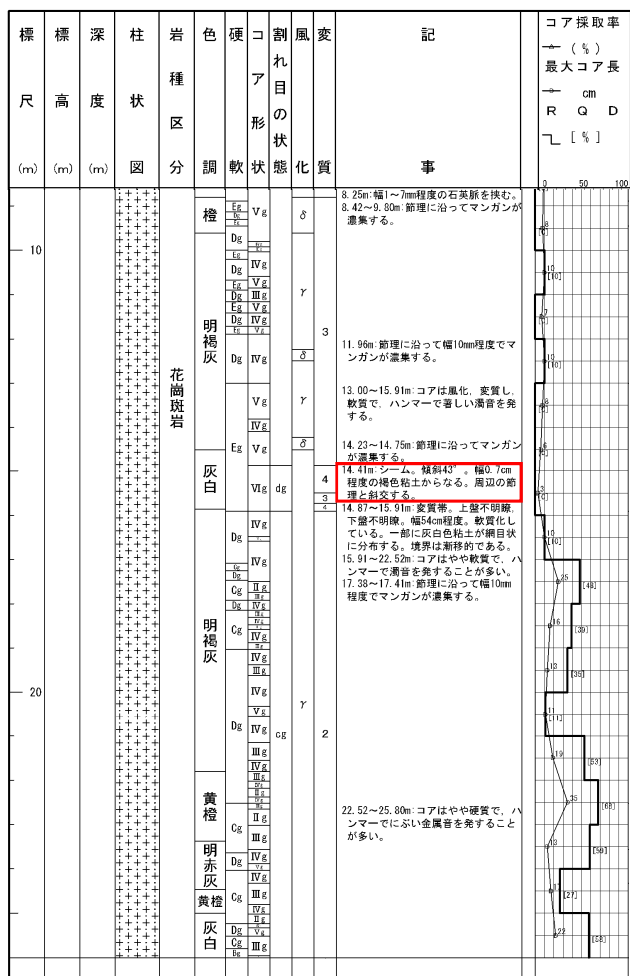
凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-6孔 深度14.41m)

・周囲の構造を切って縞状の構造が認められることや、粒子の定向配列が認められることから、破碎部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

| 記事 |
|--|
| 8.25m ・幅1~7mmの石英脈を挟む。 8.42~9.80m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 11.96m ・割れ目沿いに幅10mmでマンガンが濃集する。 |
| 14.23~14.75m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 ●14.41~14.42m(D-43破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。 ●14.78~15.13m ・破碎部である。 ・灰白色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN81° W65° Sである。 |
| 17.38~17.41m ・割れ目沿いに幅10mm程度でマンガンが濃集する。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 8.25m ・幅1~7mmの石英脈を挟む。 8.42~9.80m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 11.96m ・割れ目沿いに幅10mmでマンガンが濃集する。 |
| 14.23~14.75m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 ●14.41~14.42m(D-43破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。 ●14.78~15.13m ・破碎部である。 ・灰白色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN81° W65° Sである。 |
| 17.38~17.41m ・割れ目沿いに幅10mm程度でマンガンが濃集する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|--|--|
| 14.41mシーム。傾斜43°。幅0.7cm程度の褐色粘土からなる。周辺の節理と斜交する。 | ●14.41~14.42m(D-43破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。 | ●14.41~14.42m(D-43破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN53° W60° Sである。 |

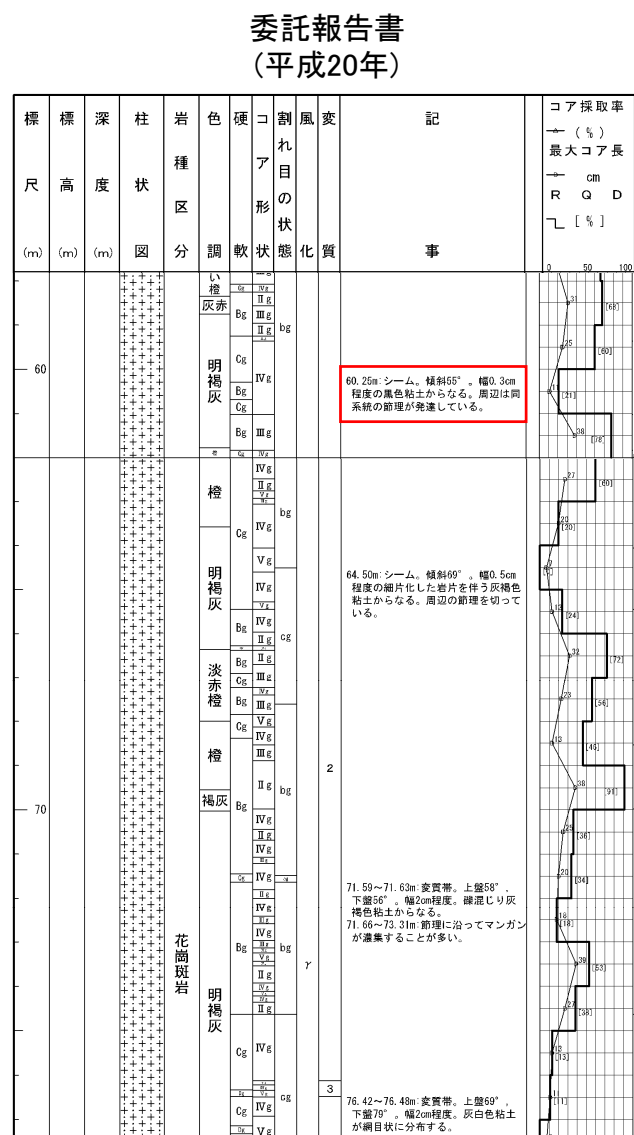


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-6孔 深度60.25m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

| 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">記 事</p> <p>71.59~71.63m ・変質している。 ・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。 71.66~73.31m ・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。</p> | <p style="text-align: center;">記 事</p> <p>71.59~71.63m ・変質している。 ・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。 71.66~73.31m ・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。</p> |
| <p>76.42~76.48m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。</p> | <p>76.42~76.48m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。</p> |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|--------------------|
| 60.25mシーム。傾斜55°。幅0.3cm程度の黒色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



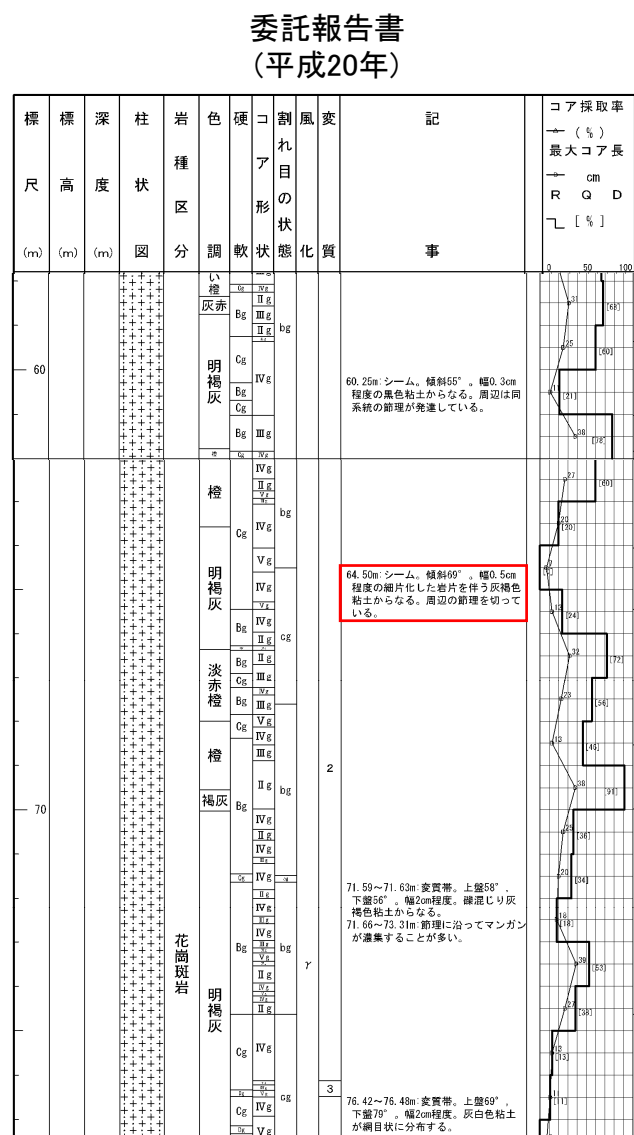
凡 例

← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-6孔 深度64.50m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



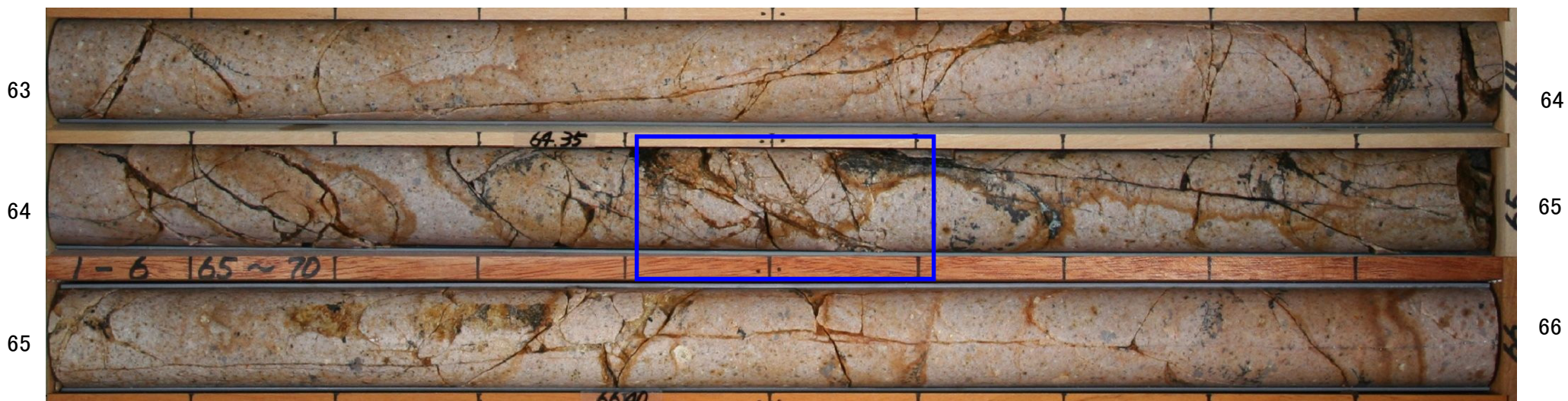
審査資料案

| 記事 |
|--|
| 71.59~71.63m ・変質している。 ・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。 71.66~73.31m ・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。 |
| 76.42~76.48m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|--|
| 71.59~71.63m ・変質している。 ・灰褐色礫混じり粘土状を呈する。 71.66~73.31m ・割れ目沿いにマンガンが濃集することが多い。 |
| 76.42~76.48m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|-----------------------|
| 64.50m:シーム。傾斜69°。幅0.5cm程度の細片化した岩片を伴う灰褐色粘土からなる。周辺の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-①-8孔 深度5.92m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

| 標尺 | 標高 | 深度 | 柱状図 | 岩種 | 色 | 硬軟 | 割れ目の状態 | 風化 | 変質 | 記 | コア採取率 (%) | 最大コア長 (cm) |
|----|-------|------|-----|-----|---|----|--------|----|----|--|-----------|------------|
| | 29.21 | 0.16 | | 褐色 | | | | | | 0.00~0.16m: 腐植土。 0.16~1.89m: 褐色を呈する礫混じり砂からなる。1.00~1.70mには硬質の花崗斑岩の転石を含む。 | 9 | 50 |
| | 28.37 | 1.00 | | 玉石 | | | | | | | | |
| | 27.51 | 1.86 | | 黄橙 | | | | | | 1.86~16.04m: 花崗斑岩。径1~8mm程度の石英、長石、径2mm以下の黒雲母の斑晶を10~15%程度含む。 1.86~8.71m: コアは風化、変質し、軟質で、ハンマーで著しい濁音~濁音を発する。 1.86~7.73m: 傾斜20°及150°程度の割れ目がみられる。節理には灰白色粘土を伴う。 2.65m: 幅1.5mm程度の石英脈を挟む。傾斜75°程度。 3.60~4.00m: 節理に沿ってマンガンが濃集する。 4.06~4.44m: 変質帯。上盤74°、下盤84°。幅4cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 5.92m: シーム。傾斜83°。幅0.2cm程度の暗灰色、灰白色粘土からなる。 | | |
| | | | | 浅黄橙 | | | | | | | | |

審査資料案

| 記事 |
|---------------------------------|
| 0.00~0.16m ・有機質土である。 |
| 0.16~1.00m ・礫混じり砂である。 |
| 1.00~1.70m ・玉石である。 |
| ・硬質の花崗斑岩である。 |
| 1.86~16.04m ・花崗斑岩である。 |
| 1.86~8.71m ・変質している。 |
| ・風化を受け軟質化する。 |
| 2.65m ・幅1.5mmの石英脈を挟む。 |
| 3.60~4.00m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 4.06~4.44m ・変質している。 |
| ・灰白色粘土が網目状に分布する。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|---------------------------------|
| 0.00~0.16m ・有機質土である。 |
| 0.16~1.00m ・礫混じり砂である。 |
| 1.00~1.70m ・玉石である。 |
| ・硬質の花崗斑岩である。 |
| 1.86~16.04m ・花崗斑岩である。 |
| 1.86~8.71m ・変質している。 |
| ・風化を受け軟質化する。 |
| 2.65m ・幅1.5mmの石英脈を挟む。 |
| 3.60~4.00m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 4.06~4.44m ・変質している。 |
| ・灰白色粘土が網目状に分布する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|--|-------|-----------------------|
| 5.92m: シーム。傾斜83°。幅0.2cm程度の暗灰色、灰白色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |



凡例
← : シーム

0 5 cm

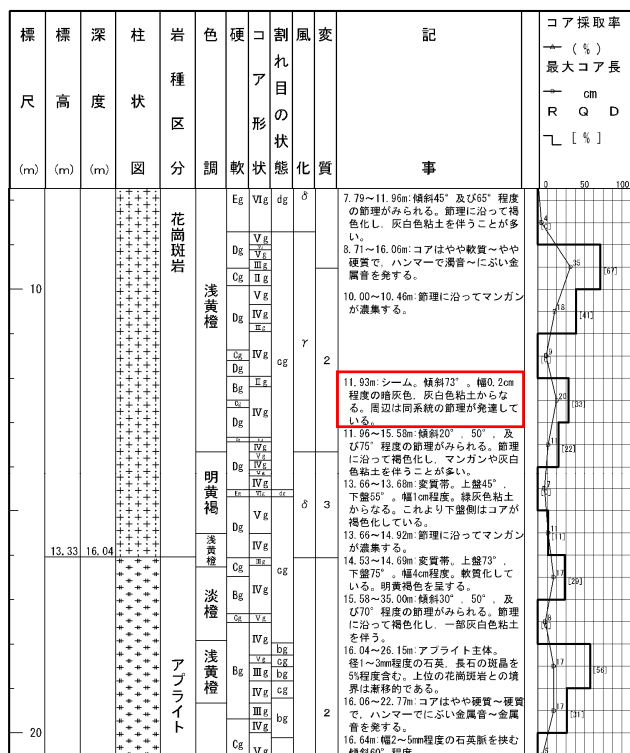
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-8孔 深度11.93m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

審査資料案

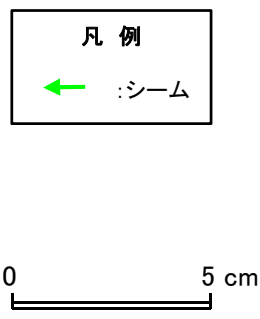
審査資料 (平成30年11月30日)



| 記事 |
|--|
| 8.71~16.06m ・割れ目が多く、角礫状~短柱状を呈する。 10.00~10.46m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 13.66~13.68m ・変質している。 ・緑灰色粘土からなる。 |
| 13.66~14.92m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 14.53~14.69m ・変質している。 ・明黄褐色を呈し、軟質化している。 |
| 16.04~26.15m ・アブライトが主体である。 |
| 16.64m ・幅2~5mm程度の石英脈を挟む。 |

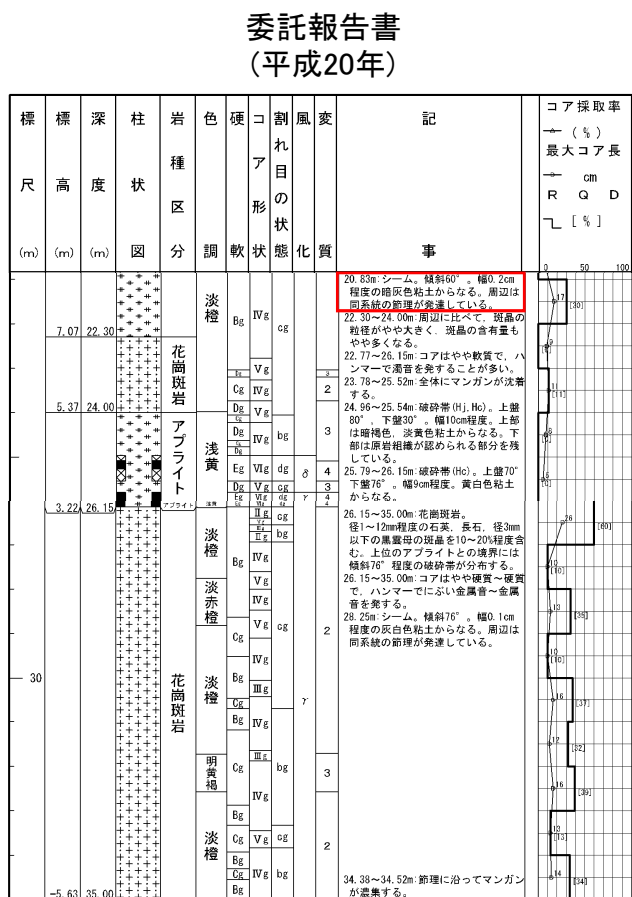
| 記事 |
|--|
| 8.71~16.06m ・割れ目が多く、角礫状~短柱状を呈する。 10.00~10.46m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 13.66~13.68m ・変質している。 ・緑灰色粘土からなる。 |
| 13.66~14.92m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |
| 14.53~14.69m ・変質している。 ・明黄褐色を呈し、軟質化している。 |
| 16.04~26.15m ・アブライトが主体である。 |
| 16.64m ・幅2~5mm程度の石英脈を挟む。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|-----------------------|
| 11.93m:シーム、傾斜73°。幅0.2cm程度の暗灰色、灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-8孔 深度20.83m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



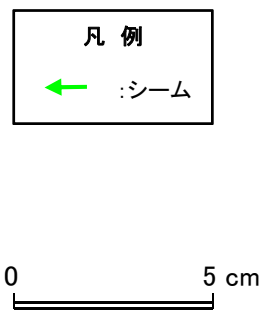
審査資料案

| 記事 |
|------------------------------------|
| 22.30~24.00m ・花崗斑岩である。 |
| 23.78~25.52m ・全体にマンガンが沈着する。 |
| ●24.96~26.15m (D-4破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・主に浅黄色の固結礫状部及び黄白色の固結粘土状部からなる。 |
| ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅10.0cm |
| ・走向・傾斜はN5° E79° Wである。 |
| ・上端境界の傾斜は80°、下端境界の傾斜は76°である。 |
| 26.15~35.00m ・花崗斑岩である。 |
| 34.38~34.52m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

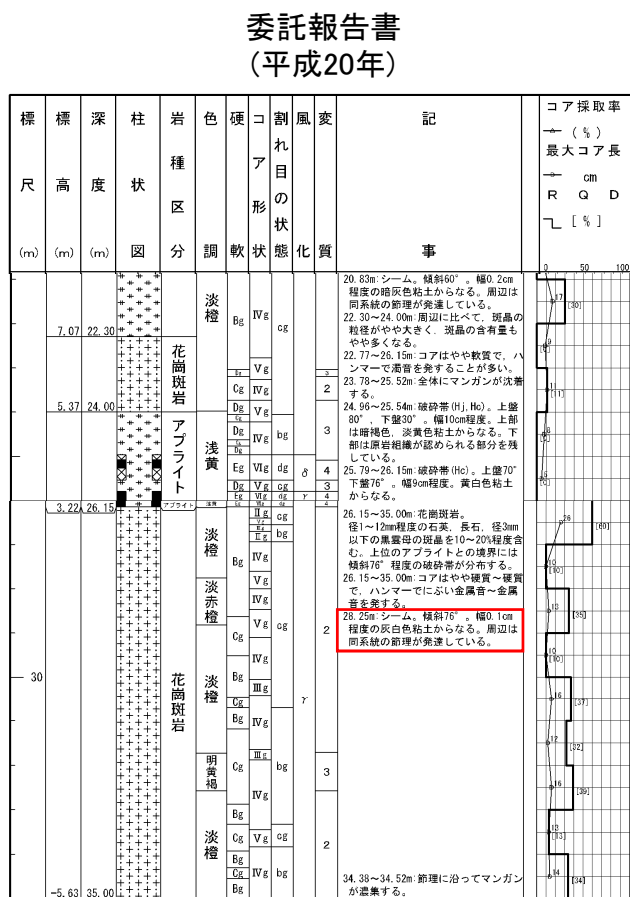
| 記事 |
|------------------------------------|
| 22.30~24.00m ・花崗斑岩である。 |
| 23.78~25.52m ・全体にマンガンが沈着する。 |
| ●24.96~26.15m (D-4破碎帯) ・破碎部である。 |
| ・主に浅黄色の固結礫状部及び黄白色の固結粘土状部からなる。 |
| ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅10.0cm |
| ・走向・傾斜はN5° E79° Wである。 |
| ・上端境界の傾斜は80°、下端境界の傾斜は76°である。 |
| 26.15~35.00m ・花崗斑岩である。 |
| 34.38~34.52m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|--------------------|
| 20.83m:シーム。傾斜60°。幅0.2cm程度の暗灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-8孔 深度28.25m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

| 記事 |
|---|
| 22.30~24.00m ・花崗斑岩である。 |
| 23.78~25.52m ・全体にマンガンが沈着する。 ●24.96~26.15m (D-4破砕帯) ・破砕部である。 |
| ・主に浅黄色の固結状部及び黄白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅10.0cm ・走向・傾斜はN5° E79° Wである。 ・上端境界の傾斜は80°、下端境界の傾斜は76°である。 |
| 26.15~35.00m ・花崗斑岩である。 |
| 34.38~34.52m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |

審査資料 (平成30年11月30日)

| 記事 |
|---|
| 22.30~24.00m ・花崗斑岩である。 |
| 23.78~25.52m ・全体にマンガンが沈着する。 ●24.96~26.15m (D-4破砕帯) ・破砕部である。 |
| ・主に浅黄色の固結状部及び黄白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅10.0cm ・走向・傾斜はN5° E79° Wである。 ・上端境界の傾斜は80°、下端境界の傾斜は76°である。 |
| 26.15~35.00m ・花崗斑岩である。 |
| 34.38~34.52m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 審査資料案 | 審査資料 (平成30年11月30日) |
|---|-------|--------------------|
| 28.25m シーム、傾斜76°、幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |

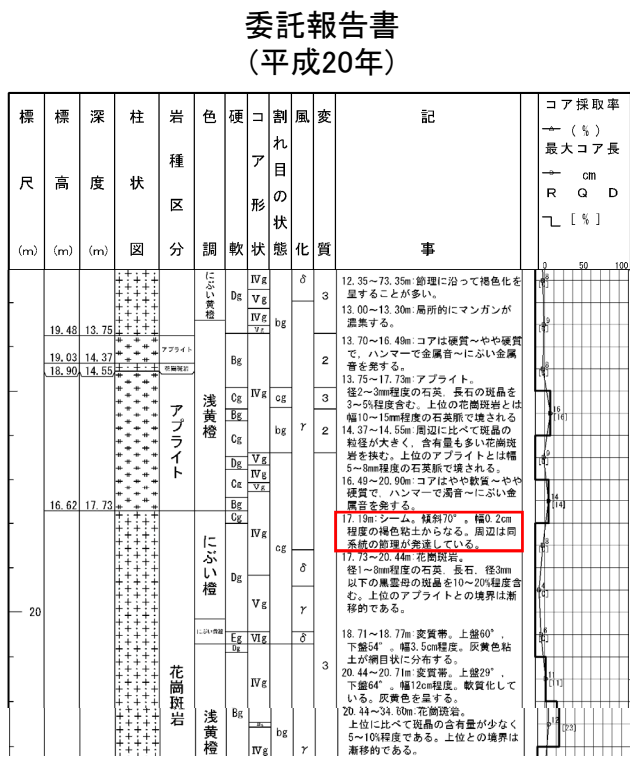


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-9孔 深度17.19m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

| 記事 |
|---|
| 13.70~14.91m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 |
| 13.75~17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。 |
| 14.37~14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。 |
| 14.55~17.73m アプライトである。 |
| 17.73~34.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 |
| 18.71~18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は54°である。 |
| 20.44~20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は29°、下端境界の傾斜は64°である。 |

設置許可申請書 (平成27年11月)

| 記事 |
|---|
| 13.70~14.91m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 |
| 13.75~17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。 |
| 14.37~14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。 |
| 14.55~17.73m アプライトである。 |
| 17.73~34.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 |
| 18.71~18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は54°である。 |
| 20.44~20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は29°、下端境界の傾斜は64°である。 |

審査資料 (平成29年12月22日)

| 記事 |
|---|
| 13.70~14.91m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 |
| 13.75~17.73m ・アプライトである。 ・上端境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。 |
| 14.37~14.55m ・花崗斑岩である。 ・上端境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。 |
| 14.55~17.73m アプライトである。 |
| 17.73~34.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 |
| 18.71~18.77m ・変質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。 |
| 20.44~20.71m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書 (平成27年11月) | 審査資料 (平成29年12月22日) |
|---|----------|--------------------|--------------------|
| 17.19m: シーム。傾斜70°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



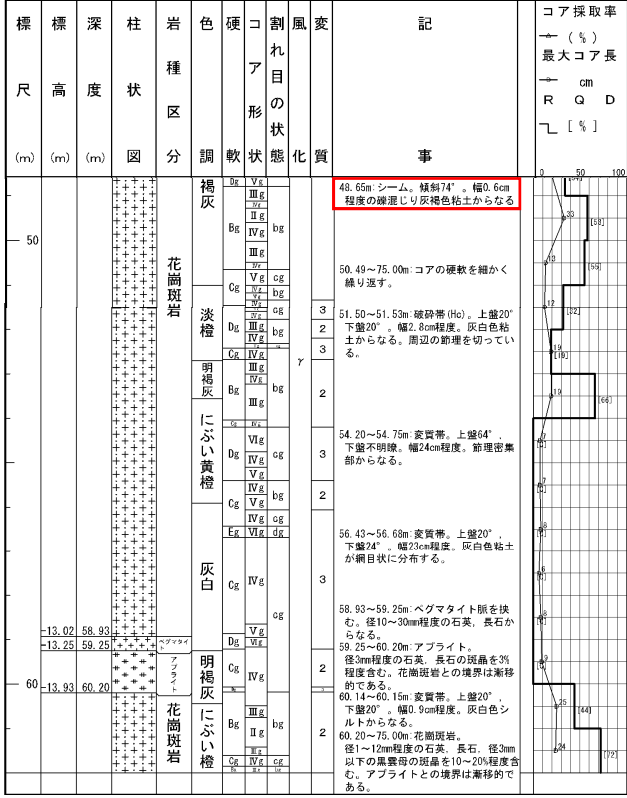
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-9孔 深度48.65m)

・礫混じり粘土状を呈するが、礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

| 記事 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●51.50~51.53m ・破碎部である。 ・灰白色の粘土状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚28mm ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は20°である。 54.20~54.75m ・変質している。 ・にぶい黄褐色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は不明瞭である。 56.43~56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は24°である。 58.93~59.25m ・ベグマタイトである。 59.25~60.20 ・アプライトである。 60.20~75.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 |

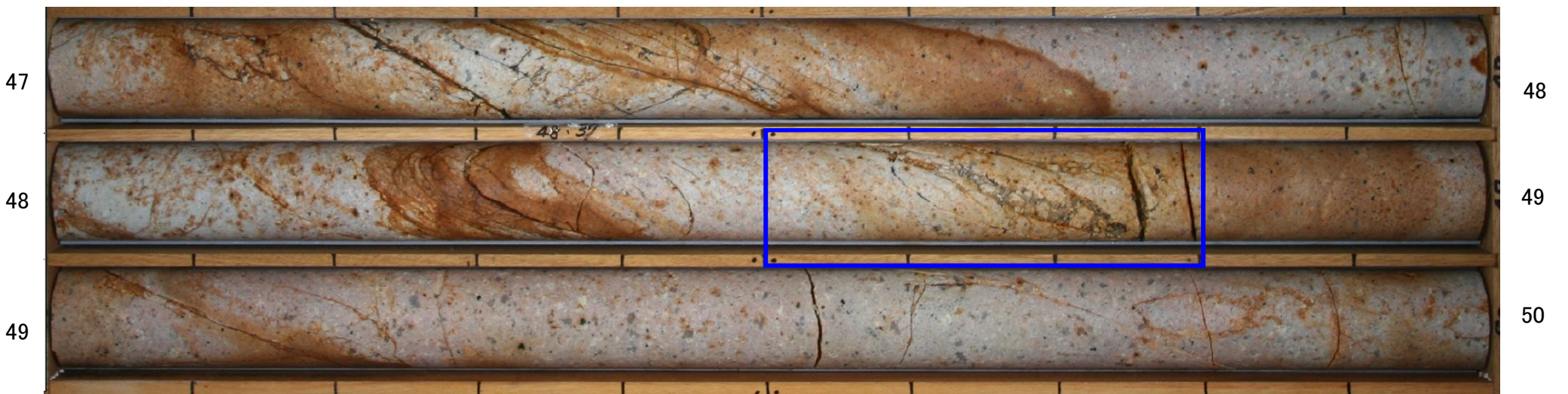
設置許可申請書 (平成27年11月)

| 記事 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●51.50~51.53m ・破碎部である。 ・灰白色の粘土状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚28mm ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は20°である。 54.20~54.75m ・変質している。 ・にぶい黄褐色の割れ目密集状を呈する。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は不明瞭である。 56.43~56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は24°である。 58.93~59.25m ・ベグマタイトである。 59.25~60.20 ・アプライトである。 60.20~75.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 |

審査資料 (平成29年12月22日)

| 記事 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●51.50~51.53m (f-①-9-3破碎帯) ・破碎部である。 ・灰白色の未固結粘土状からなる。この累計幅は2.8cmである。 ・走向・傾斜はN36° W61° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は20°である。 54.20~54.75m ・変質している。 ・にぶい黄褐色の割れ目密集状を呈する。 56.43~56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 58.93~59.25m ・ベグマタイトである。 59.25~60.20m ・アプライトである。 60.20~75.00m ・花崗斑岩である。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書 (平成27年11月) | 審査資料 (平成29年12月22日) |
|---|----------|--------------------|--------------------|
| 48.65mシーム、傾斜74°。幅0.6cm程度の礫混じり灰褐色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



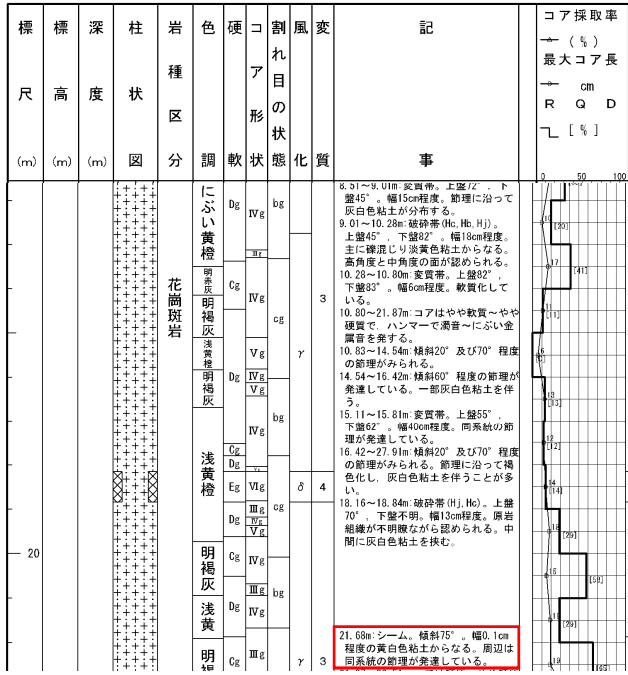
凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-10孔 深度21.68m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

| 記事 |
|--|
| 8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目によって灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は45°である。 ●9.01~10.28m ・破砕部である。 ・淡黄色の粘土~混濁じり粘土状~淡褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は82°である。 10.28~10.80m ・変質し軟質化している。 ・上盤境界の傾斜は82°、下盤境界の傾斜は83°である。 15.11~15.81m ・変質している。 ・傾斜60°程度の割れ目が多く、一部灰白色粘土を伴う。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は62°である。 ●18.16~18.84m ・破砕部である。 ・灰白色の粘土状~淡黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° E81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は不明瞭である。 |

設置許可申請書 (平成27年11月)

| 記事 |
|--|
| 8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目によって灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は45°である。 ●9.01~10.28m ・破砕部である。 ・淡黄色の粘土~混濁じり粘土状~淡褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は82°である。 10.28~10.80m ・変質し軟質化している。 ・上盤境界の傾斜は82°、下盤境界の傾斜は83°である。 15.11~15.81m ・変質している。 ・傾斜60°程度の割れ目が多く、一部灰白色粘土を伴う。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は62°である。 ●18.16~18.84m ・破砕部である。 ・灰白色の粘土状~淡黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° E81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は不明瞭である。 |

審査資料 (平成29年12月22日)

| 記事 |
|--|
| 8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目によって灰白色粘土が分布する。 ●9.01~10.28m (f-①-10-2破砕帯) ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は85°である。 10.28~10.80m ・変質し軟質化している。 15.11~15.81m ・変質している。 ・傾斜60°程度の割れ目が多く、一部灰白色粘土を伴う。 ●18.16~18.84m (f-①-10-2破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄褐色の面結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° E81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は不明瞭である。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書 (平成27年11月) | 審査資料 (平成29年12月22日) |
|---|----------|-----------------------|-----------------------|
| 21.68m:シーム。傾斜75°。幅0.1cm程度の黄白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |

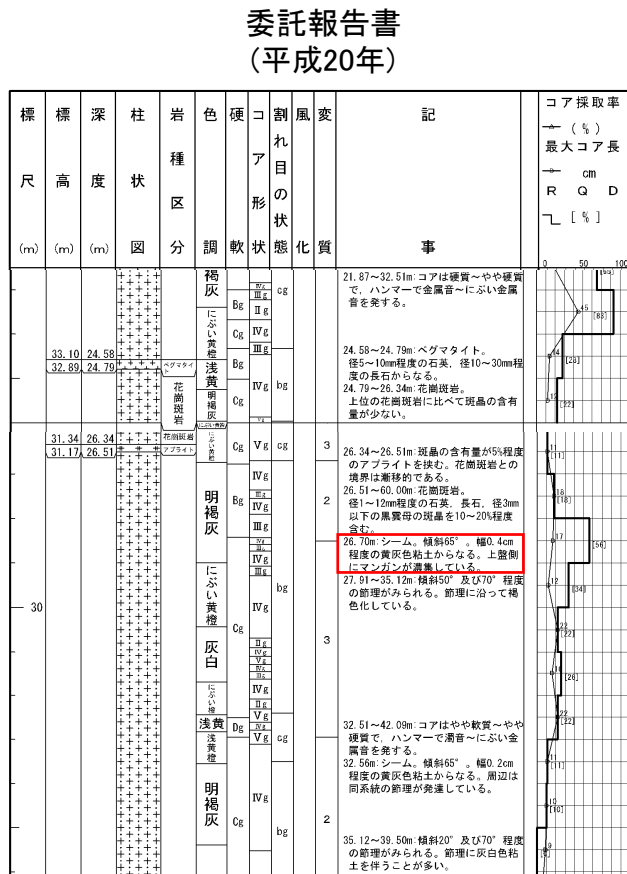


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-10孔 深度26.70m)

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

| 記事 |
|--|
| 24.58~24.79m ・ペグマタイトである。 |
| 24.79~26.34m ・花崗斑岩である。 |
| 26.34~26.51m ・アブライトである。 |
| 26.51~60.00m ・花崗斑岩である。 |
| 27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 26.70m: シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黄灰色粘土からなる。上盤側にマンガンが濃集している。 |
| 27.91~35.12m: 傾斜50°及び70°程度の割れ目がみられる。節理に沿って緑色化している。 |
| 32.51~42.09m: コアはやや軟質～やや硬質で、ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。 |
| 32.55m: シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の黄灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 |
| 35.12~39.50m: 傾斜20°及び70°程度の割れ目がみられる。節理に灰白色粘土を伴うことが多い。 |

設置許可申請書 (平成27年11月)

| 記事 |
|--|
| 24.58~24.79m ・ペグマタイトである。 |
| 24.79~26.34m ・花崗斑岩である。 |
| 26.34~26.51m ・アブライトである。 |
| 26.51~60.00m ・花崗斑岩である。 |
| 27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 26.70m: シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黄灰色粘土からなる。上盤側にマンガンが濃集している。 |
| 27.91~35.12m: 傾斜50°及び70°程度の割れ目がみられる。節理に沿って緑色化している。 |
| 32.51~42.09m: コアはやや軟質～やや硬質で、ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。 |
| 32.55m: シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の黄灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 |
| 35.12~39.50m: 傾斜20°及び70°程度の割れ目がみられる。節理に灰白色粘土を伴うことが多い。 |

審査資料 (平成29年12月22日)

| 記事 |
|--|
| 24.58~24.79m ・ペグマタイトである。 |
| 24.79~26.34m ・花崗斑岩である。 |
| 26.34~26.51m ・アブライトである。 |
| 26.51~60.00m ・花崗斑岩である。 |
| 27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 26.70m: シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黄灰色粘土からなる。上盤側にマンガンが濃集している。 |
| 27.91~35.12m: 傾斜50°及び70°程度の割れ目がみられる。節理に沿って緑色化している。 |
| 32.51~42.09m: コアはやや軟質～やや硬質で、ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。 |
| 32.55m: シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の黄灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 |
| 35.12~39.50m: 傾斜20°及び70°程度の割れ目がみられる。節理に灰白色粘土を伴うことが多い。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書 (平成27年11月) | 審査資料 (平成29年12月22日) |
|---|----------|--------------------|--------------------|
| 26.70m: シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黄灰色粘土からなる。上盤側にマンガンが濃集している。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



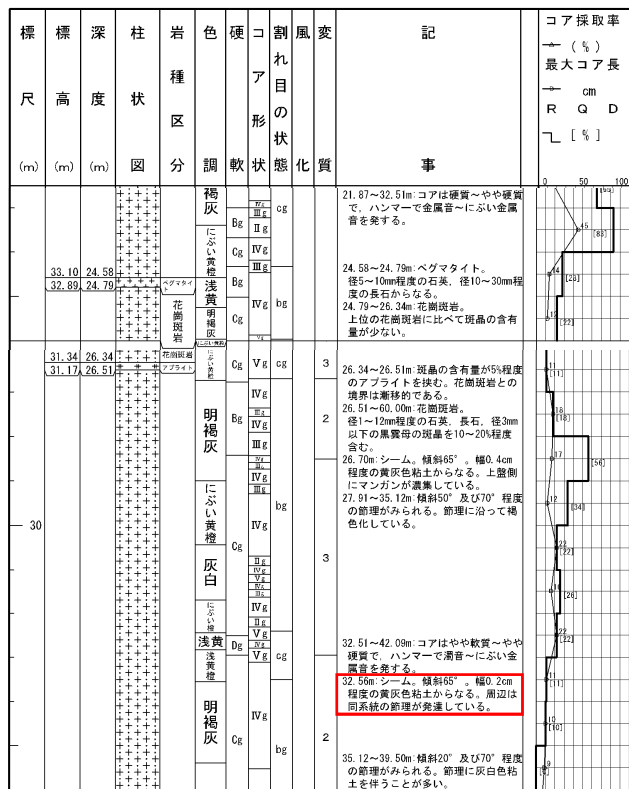
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-10孔 深度32.56m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

| 記事 |
|--|
| 24.58~24.79m ・ペグマタイトである。 |
| 24.79~26.34m ・花崗斑岩である。 |
| 26.34~26.51m ・アブライトである。 |
| 26.51~60.00m ・花崗斑岩である。 |
| 27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 39.50~42.09m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 42.09~44.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 44.00~46.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 46.00~48.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 48.00~50.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 50.00~52.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 52.00~54.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 54.00~56.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 56.00~58.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 58.00~60.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |

設置許可申請書 (平成27年11月)

| 記事 |
|--|
| 24.58~24.79m ・ペグマタイトである。 |
| 24.79~26.34m ・花崗斑岩である。 |
| 26.34~26.51m ・アブライトである。 |
| 26.51~60.00m ・花崗斑岩である。 |
| 27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 39.50~42.09m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 42.09~44.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 44.00~46.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 46.00~48.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 48.00~50.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 50.00~52.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 52.00~54.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 54.00~56.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 56.00~58.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 58.00~60.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |

審査資料 (平成29年12月22日)

| 記事 |
|--|
| 24.58~24.79m ・ペグマタイトである。 |
| 24.79~26.34m ・花崗斑岩である。 |
| 26.34~26.51m ・アブライトである。 |
| 26.51~60.00m ・花崗斑岩である。 |
| 27.91~35.12m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 35.12~39.50m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 39.50~42.09m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 42.09~44.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 44.00~46.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 46.00~48.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 48.00~50.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 50.00~52.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 52.00~54.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 54.00~56.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |
| 56.00~58.00m ・傾斜50°、70°程度の割れ目が分布する。 |
| 58.00~60.00m ・傾斜20°、70°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 |

| 委託報告書 (平成20年) | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書 (平成27年11月) | 審査資料 (平成29年12月22日) |
|---|----------|-----------------------|-----------------------|
| 32.56m:シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の黄灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



凡例
← :シーム

0 5 cm